

60175

教科書文庫

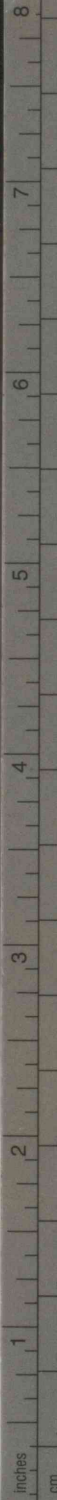
6
410
34-1950
01304 49826

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



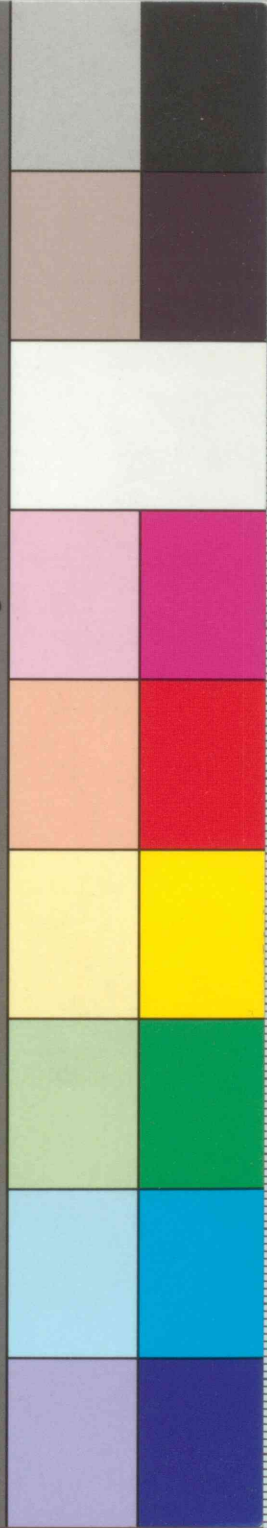
© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



文 部 省 検 定 済 教 科 書
財 団 法 人 日 本 新 教 育 研 究 会 編 修
教 育 學 部 資 料 室

1	1
学 図	小 算 6 1 3

六年生の算数

下



広島大学図書

0130449826

学校図書株式会社発行

中央図書館

Copyright 1950, by
The Nihon Shinkyōiku Kenkyūkai

All rights reserved

The text of this publication or any part thereof
may not be reproduced in any manner whatsoever
without permission in writing from the authors.

この教科書を用いられる先生方へ

- この教科書の編修方針については、別冊「教師と父母のための指導書」を参照されたい。したがって、ここには、直接指導上の参考事項のみを掲げることとする。
- 数材配当は、大体、第一学期は、上巻 1. 「研究のかどで」から、4. 「大きい数の乗除」までの4課、第二学期は、上巻 5. 「分数」から、下巻 7. 「重と体積」までの3課、第三学期は、下巻 8. 「実務」から、9. 「全体のたしかめ」の2課とした。
- 文字・文章は、つとめて平易にし、絵や図を豊富にしたので、指導にあたっては、先ず児童に読ませて、学習の目標を、しっかりつかませるように願いたい。
- しかし、紙面の制限から、児童にとって、記述の不十分な所もあるから、児童の積極的な質問が生ずるように導かれたい。
- 観察・調査・測定・実験・製作などは、必ず実践するように導いていただきたい。それを怠っては、数・量・形についての基礎観念が築かれず、また数学的な生活の指導にもなりえないことになる。
- 各単元のはじめに、「めあて」の項を設け、児童の生活経験を通じて、この単元で学習する主な目標を示した。児童に、この単元で学習すべき目標を明確に把握させた後、実際指導に当たられるよう希望する。
- 各単元の終わりに、「まとめ」の項を設けた。ここでは、その単元で学習した事項を、整理総括させて、学習内容の理解を的確にするとともに、学習方法を反省させて、よりよい学習態度の建設に努めていただきたい。
- ☆印をつけた問題は、余力ある児童のためのものである。もちろん、十分ではないから、実際指導においては、適当に補充していただきたい。
- テストは、できるだけ多く掲げたつもりである。テストの答を巻末につけておいたから、児童の学習反省・自己診断の資料として、活用するように導かれたい。
- 「これまでのれんしゅう」の単元を設けて、るようにした。しかし、この材料は数が少ない。
- 巻末に内容の索引をつけた。十分御活用願

広島大学図書

0130449826



寄贈

教科書文庫

6

410

34-1950

0130449826

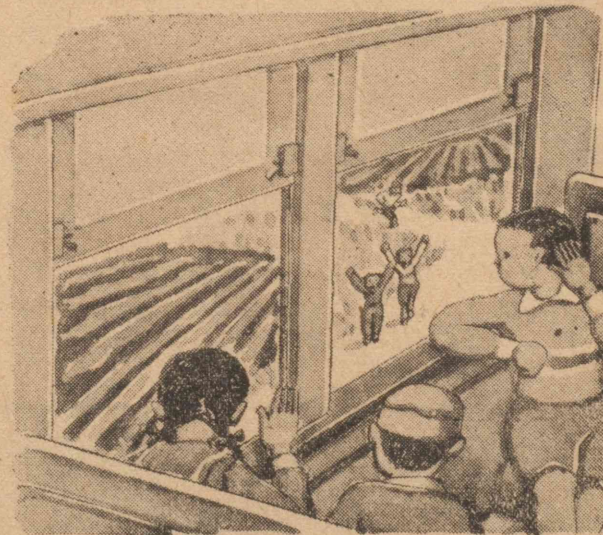
昭和25年 月 日 文部省検定済小学校算数科用

六年生の算数

下

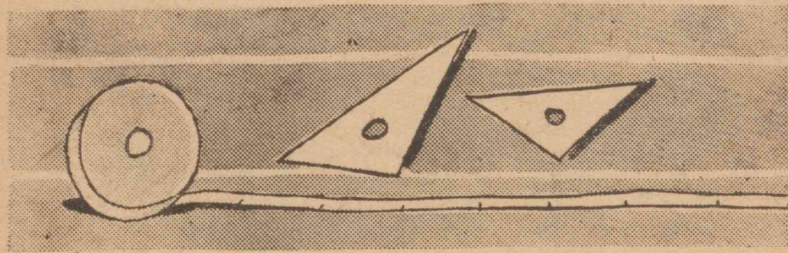
広島大学図書

0130449826



学校図書株式会社

広島大学
教育学部図書



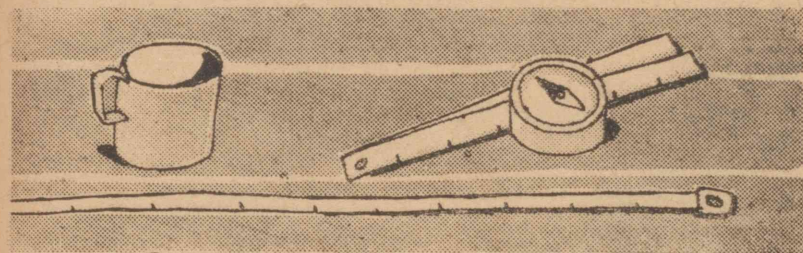
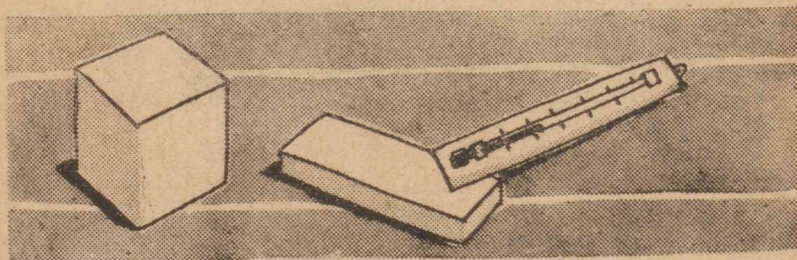
目 次

6. 図形とグラフ

- 11. 旅行と地図 1—22
- 12. テストのしらべかた 23—38
- 13. 生活のしらべ 39—58
- これまでの練習 59—62

7. 重さと体積

- 14. 燃料のしらべ 63—78
- 15. 米の収かく 79—94
- これまでの練習 95—102

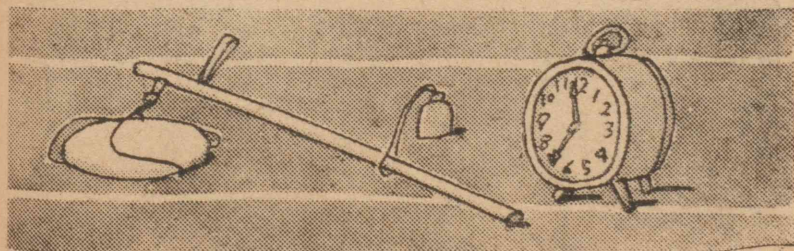


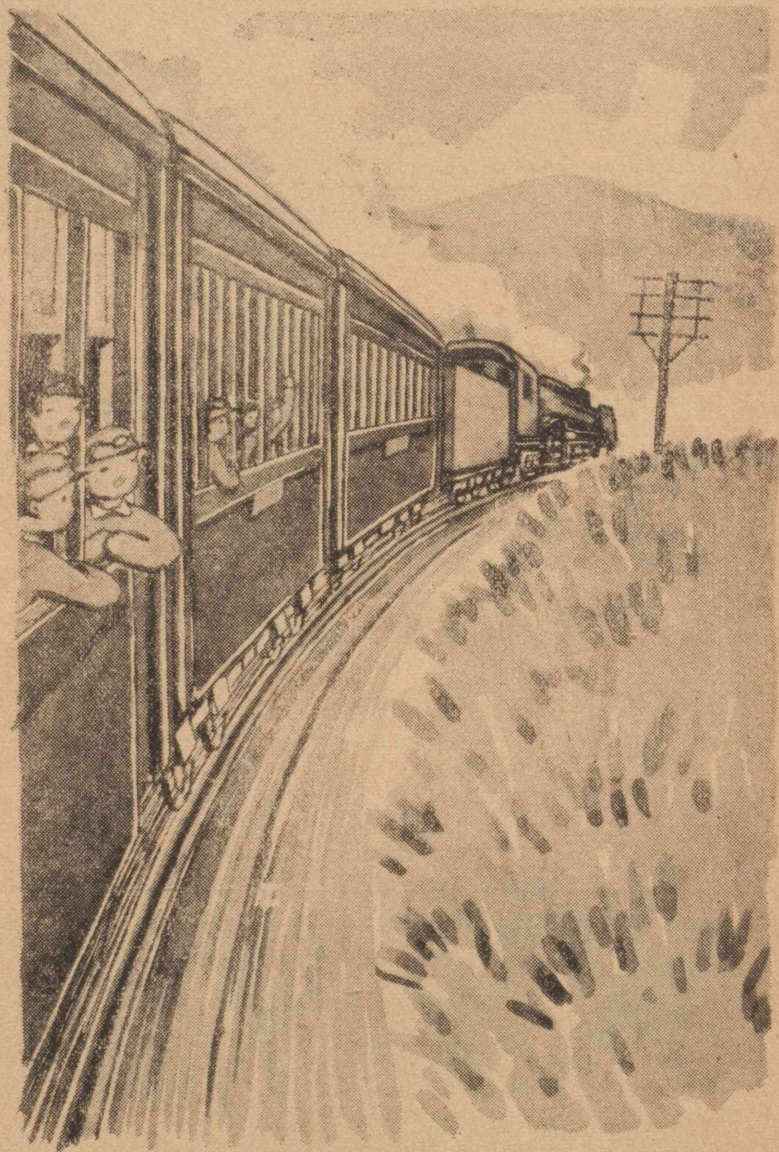
8. 実 務

- 16. 私たちの図書館 103—118
- 17. 郵便貯金 119—133
- これまでの練習 134—142

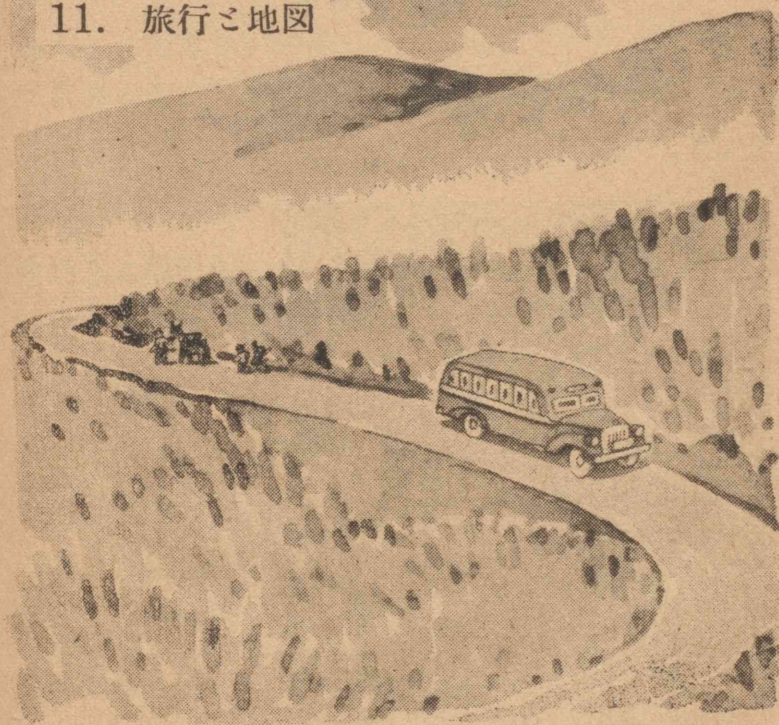
9. 全体のたしかめ

- 18. 卒業を前に 143—167
- テストの答
- さくいん





11. 旅行と地図

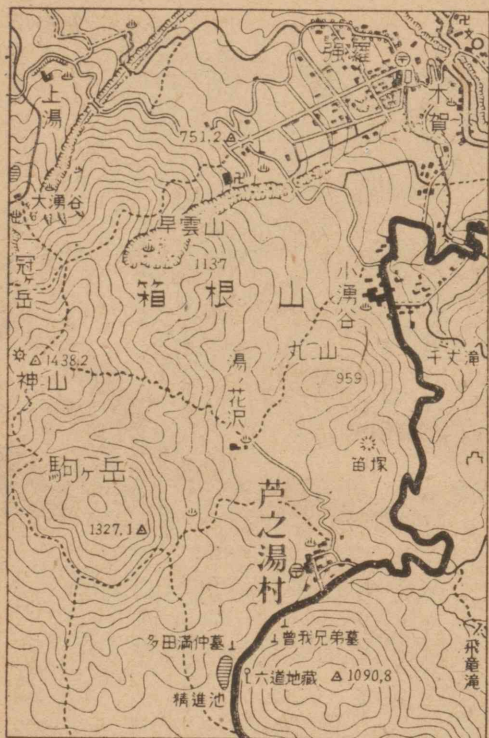


この單元では、私たちの楽しい旅行の計画をたてるために、地図を見ながら、そのまがった道の長さをしらべましょう。

また、地図を見て実際の面積をだすことを研究したり、進んで相似形について学んだりしましょう。

1 泊旅行

広君たちは、近く箱根へ一泊旅行をすることになりました。



広君が、
「小涌谷駅から芦の湯までは、どれだけの道のりがあるでしょう。」と、問題をだしました。

「それは、地図を見ればわかるよ。」

と、正男君がいました。

みんなは、五万分の一の地図でしらべることになりました。すると、先生が、

「この地図で、道のりをはかるときに、注意することはありませんか。」

といわれました。

かず子さんは、

「まず、しゆく尺に注意します。これは五万分の一のしゆく図ですから、この地図で 1 cm の長さは

$$1 \text{ cm} \times 50000 = 50000 \text{ cm} \\ = 500 \text{ m}$$

で、500 m になります。」

といいました。

正男君は、

「今まで私たちがはかった長さは、たいてい直線でしたが、こんどは、まがった線をはかるのですから、むずかしいと思います。」

といいました。

先生も、

「なかなかよい所に気がつきました。この二つがたいせつですね。これからはかり方の研究にうつりまよう。」といわれました。

私たちも研究しましょう。

まがった道の長さのはかり方

広君は、

「まがった道の長さは、これを、まっすぐに引きのばしてはかることを考えればいいでしょう。」

といった時、先生が、

「よろしい。まず、そこに目をけつるのだ。」

とほめられました。

みんなはいっしょうけんめいに考えています。

進「糸をまがった道の上にかさねていき、あとでその糸をまっすぐにのばしてはかります。」

ふみ子「進さんのやり方とにっていますが、私は、はじめに糸をおきやすくするために、図のように道のまがりかど



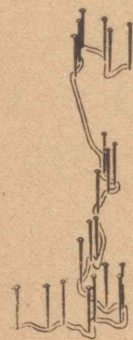
に針を立てて糸をおき、あとで、その糸の長さをしらべます。」

みんなは、感心しました。

その時、

「そのほかに、もっといいはかり方があります。」

と、元気よく手をあげた人がありました。

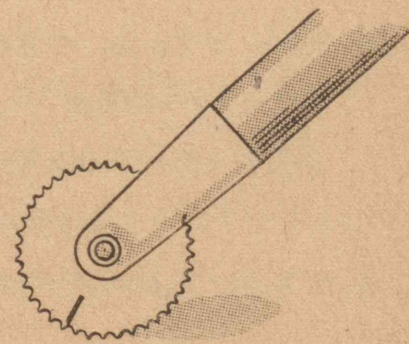


先生「正男君。」

正男「ぼくは、下の図のようにしるしをつけた歯車を、道のおりにころがして、その歯車が何回とどれだけまわったかをしらべます。あとで、直線の上を、それだけころがして、その長さをはかります。」

そこで先生は、つぎのようにいわれました。

進君のように、まがった長さを糸ではかることや、ふみ子さんの



ように、糸をおきやすくするために針を立てることはなかなかよい考えです。

正男君の歯車を使うはかり方は、一步すぐれていませんね。地図の上で長さをはかる道具があるのですが、このしかけて、できていますよ。

では、これから糸を使って、はかってみましょう。」

みんなは、2人ずつくんで、はかりました。

はかった長さをくらべてみると、

正男君のしかたで 約 9 cm

ふみ子さんのしかたで 約 9.5 cm

となりました。

3 ページでしらべたように地図の上の 1 cm は実際には 500 m ですから、つぎのように計算しました。

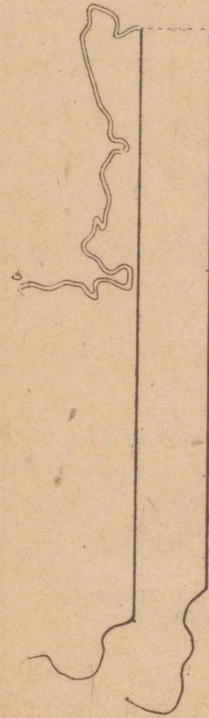
$$500 m \times 9 = 4500 m$$

$$(500 m \times 9) + (50 m \times 5) = 4500 m + 250 m$$

$$= 4750 m$$

私たちも、2 ページの地図でしらべてみましょう。」

広君たちは、この約 4.5 km は山道だから、1 時間半ぐらいかかると思いました。



2 ページの地図を見て、つぎの問題をなさい。

(1) 芦の湯から駒ヶ岳^{こまがたけ}まで、どれだけありますか。

(2) 第2日目は、大涌谷^{おほわくだに}を見学し、湖尻^{うみじり}へ出て、モーターボートで芦の湖^{あしこ}をわたり、箱根町からバスで十国峠^{とくげ}をこえて熱海^{あつみ}に出るのです。

芦の湯から大涌谷までは、何 km あるか、しらべましょう。」

☆(3) 小涌谷 → 大涌谷 → 神山 → 芦の湯 のじゅんで歩くと、みんなて何 km ですか。

地図をながめて



旅行から帰った広君たちは、地図を見ることが、前よりもよくわかって、おもしろくなりました。

けさも、四、五人で日本地図を開いています。

かず子「四つの島が、弓のようになっていますね。」

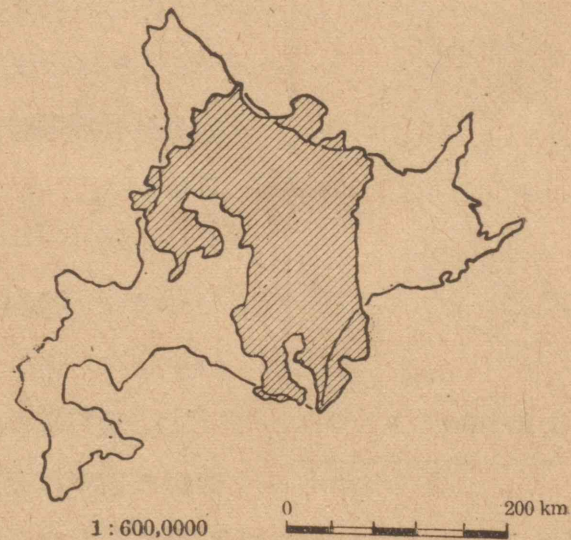
広「ぼくは、北海道は九州の約 2 倍の広さがあるよ

うな気がするよ。」

正男「そうかしら。ぼくは、2 倍はないと思う。」

ふみ子「では、くらべてみたらどうでしょう。」

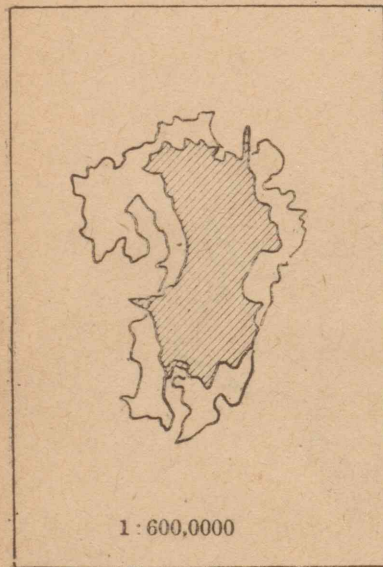
正男「それには、まず、しゆく尺を見て、地図の大きさをきめる。つぎに、うすい紙に九州を写し、それを北海道の地図の上にかさねてみればわかると思うよ。」



かさねてみると、広君のいったように北海道は九州の約2倍あることがわかりました。

朝の学習がはじまると、さっそく、このことを先生にお話しました。先生が、

「それはおもしろい。こんどは、九州と四国とをくらべてごらん。」



といわれましたので、みんなは、正男君の見つけたしかたで、しらべることになりました。

どんな結果になったでしょう。

つぎの問題をなさい。

(1) 北海道の面積は、四国の面積のおよそ何倍あるでしょう。

(2) 本州の面積は、北海道の面積の約何倍にあたりますか。

方眼と面積

広君たちは、地図を見てその実際の面積を知りたいと思いました。まず、九州の面積をしらべることになり、先生にお聞きしますと、先生はつぎのように方眼紙を使ってしらべたらよいと教えてくださいました。

1. この地図のしゆく尺は、二百万分の一である。
2. 地図の大きさを考えて5mmの方眼紙を使う。
3. 地図の1cmは、実際には20kmにあたるから、5mmでは10kmである。

4. 5mmの方眼紙の面積は、実際には、

$$10 \times 10 = 100$$

で、100km²にあたる。

5. すきとおる紙で九州の地図よりも、少し大きい5mmの方眼紙を作る。

6. 上の方眼紙を、九州の地図の上に、うまくかさねて、方眼の数をしらべて、面積をだす。

広君は、方眼の数をしらべました。つぎの図のAのような方眼と、Bのようにかけた方眼とに分けてかぞえ、その数を、右がわに書きました。

広君は、かけた方眼の面積を、平均してその一つずつが完全な一つの方眼の半分ずつと考えると、つぎのように計算しました。

完全な方眼のところの面積

$$100 \text{ km}^2 \times 280 = 28000 \text{ km}^2$$

かけた方眼のところの面積

$$100 \text{ km}^2 \times 154 \div 2 = 7700 \text{ km}^2$$

$$28000 \text{ km}^2 + 7700 \text{ km}^2 = 35700 \text{ km}^2$$

答 約 35700 km²

これを見て、先生は、

「よくできました。では、このようにして、北海道の面積もしらべてごらん。」

といわれました。

みんなは、しかたもよくわかったので、さっそく仕事にとりかかりました。

私たちも、しらべてみましょう。

相 似 形

いろいろな地図を見ているうちに、広君たちは、地図は、大きさがちがっても形は全く同じようだという

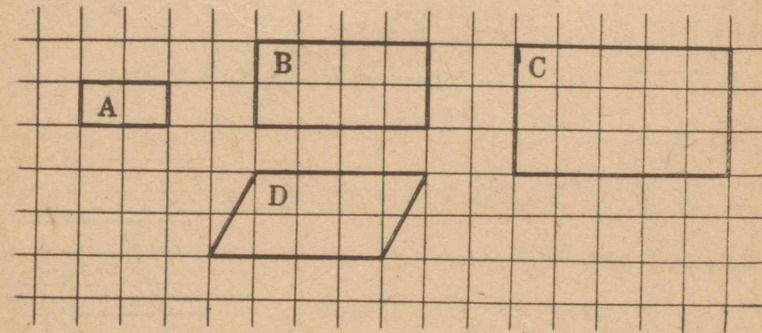
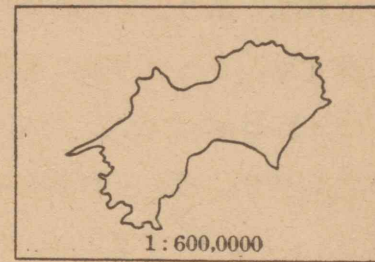
ことに気がつきました。

このことを、先生にお話をすると、

先生は、

「右の四国の地図のように、大きさはちがっても、形が全く同じである二つの形は、相似形といいます。」

と教えていただきました。



(1) 上の四つの図形で、たて・横の比は、それぞれいくらですか。比の等しいのは、どれとどれでしょう。

(2) 同じところの角が等しくなっているのは、どれ

とどれでしょう。

先生は、

「A と B のように、たてと横の比が等しく、同じところの角が、それぞれ等しい二つの長方形は、相似形です。A と C のように、たてと横の比がちがうときや、A と D のように、角がちがうときには相似形にはなりません。」

といわれました。



先生「左のような形をしたかびんを2倍にした相似形を書くには、どうしたらよいでしょう。」

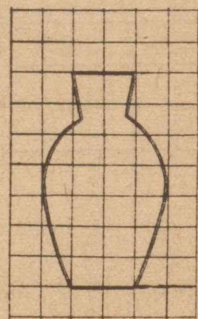
広君たちは、いろいろ考えましたがなかなかうまく考えつきません。

先生は、

「このように、方眼を書いたら考えつかないかなあ。」

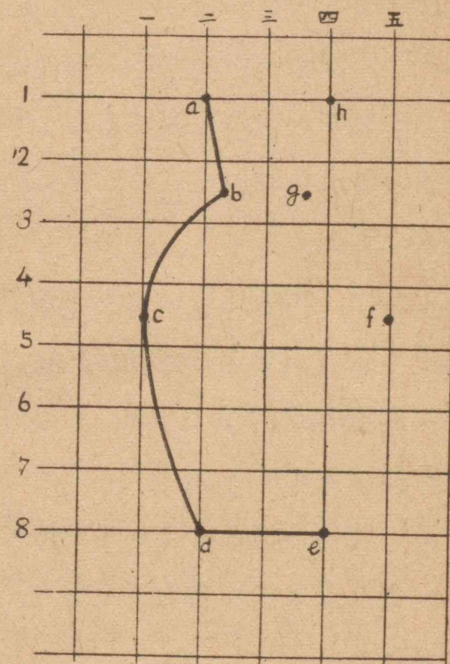
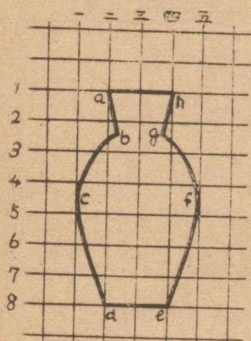
といって、右のように方眼を書い

てくださいました。
広「2倍の大きさに、方眼紙を作



ふみ子「それから、両方の方眼紙のたて横の線に同じように番号をつけておいたら、書きやすいと思います。」

先生「ふたりとも、よいところに気がつきました。さあ、やってみましょう。」



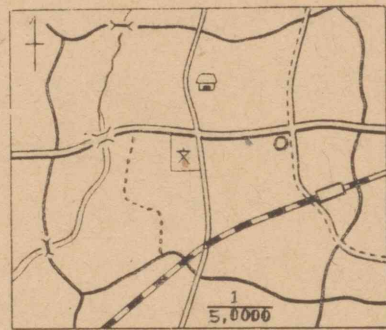
広君たちは、図のおもなところの点に、記号をつけて、書いていきました。

私たちも、広君たちのようにして、3倍にした相似形を書きましょう。

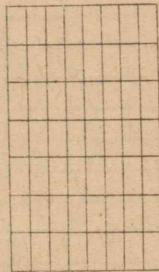
(3) 右は、秋子さんの村の地図です。

2倍に大きくした地図を書きなさい。

二分の一にちぢめた地図を書きなさい。



(4) 方眼紙のかわりに、右のようなたての長さが横の2倍であるような紙を使って、前のページのかびんのえを書きなさい。

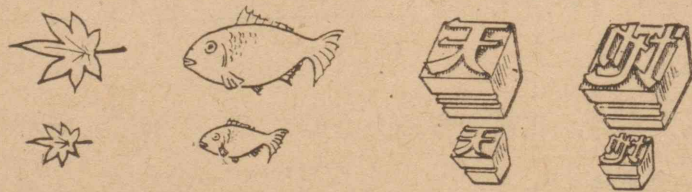


それは、相似形といえますか。

(5) えいがを見る位置が、横の前方にある時は、うつる人の顔は、どんなに見えますか。

それはなぜでしょう。

(6) 相似形になっている実際のものは、地図のほかに、どんなものがあるでしょう。



ま と め

この单元では、ぎのことを学習しました。

(1) 地図の上でまがった道の長さをはかるには

① まずしゆく尺を見てその地図の 1cm が実際はどれだけの長さにあたるかをしらべる。

② 道のまがったところに適当に針を立て糸を道のとおりにかさねて、あとで、それをまっすぐに引きのばして、その長さをはかる。

③ また、適当な歯車を使ってもよい。

(2) 地図の上で土地の面積をしべるには、

① しゆく尺を見て、方眼の大きさをきめ、うすい紙で方眼紙を作る。

② ①の方眼紙を地図の上にもうまくかさねて、方眼の数を数えて、面積をしらべる。

(3) 大きさがちがっても、形の全く同じである二つの図形を相似形という。

(4) 2倍に大きくしたり、二分の一にちぢめたりした相似形の書き方。

練 習

(1) 21 ページの地図で、

㉑ 田代郡は、どんな郡や市とさかいにしているでしょう。

㉒ 田代郡と、となりあっている郡とのさかいの長さをしらべなさい。(平山市とのさかいもしらべる。)

(2) 2 ページの地図で、小涌谷駅から芦の湯まで、近道を歩けば、何 km になりますか。

(3) つぎのしゅく尺の地図で、 $5cm$ の長さは、実際は、どれだけの長さになるでしょう。

㉑ $1:200$

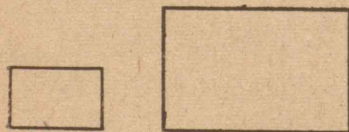
㉒ $1:5000$

㉓ $1:1,5000$

㉔ $1:20,0000$

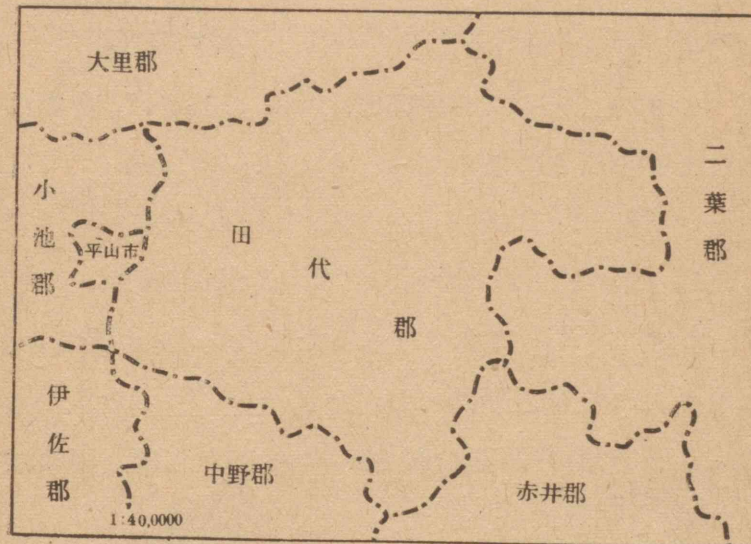
㉕ $1:300,0000$

㉖ $1:600,0000$



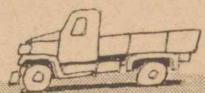
(4) 左のような二つの長方形を何といたらよいでしょう。そのわけもいいなさい。

(5) 二つの正方形があります。辺の長さは $2:3$ の比になっています。面積の比はどうでしょう。





テスト (11)



(1) つぎのしゆく尺の地図で、1 cm の長さは、実際はどれだけの長さになるでしょう。

- Ⓐ 1:1000 Ⓑ 1:5,0000
- Ⓒ 1:600,0000 Ⓓ 1:2000,0000

(2) つぎの にあてはまることばを、いれなさい。

- Ⓐ 二つの正方形は、たがいに です。
- Ⓑ 正方形の 1 辺の長さが 2 倍になれば、面積は になります。

(3) 三百万分の一の地図で、東京から下の放送局までのきよりをはかったら、だいたいつぎのとおりでした。これらの放送局は、実際には、東京からどれくらいはなれているでしょう。

名古屋 9 cm 大阪 13 cm 仙台 10 cm

松山 22 cm 熊本 29 cm 札幌 24 cm

(4) 相似形になっている二つの長方形の土地があります。横の長さは、それぞれ 12 m と 20 m です。この二つの面積の比は、どれだけでしょう。

12. テストのしらべかた



この単元では、計算の力をつける方法を考え、向上テストのしかたを研究して練習し、「成績を 10 点まん点になおす表」の見方、使い方、自分の点数と学級の平均点とをグラフに表わすことなどについて、学習しましょう。

野球の練習

正男君は野球の投手になりたいと思っています。毎日、広君とキャッチボールをして、レコードをつけています。きのうは、30回投げたうちストライクは20回でした。きょうは、1回でも多くストライクを投げようと、いきこんでいます。

広「ずいぶんうまくなったよ。」

正男「レコードをつけて練習をはじめてからのことだね。」

広「もうだいじょうぶ投手になれるよ。」

キャッチボールがすんで、正男君は、計算もこの方法で練習したら、六年生としてのしあげも、よくできるのではないかと考えました。

つぎの日、正男君はみんなにこのことを相談して、さっそく学級ではじめることになりました。先生は、「計算練習でレコードをつけるには、問題と、それをやる時間をきめることがたいせつです。まず、よせ算の問題を考えましょう。」

とって、27ページのような問題を作ってくださいました。

向上テスト

正男君たちは、「向上テスト」と名づけて、そのしかたを考えました。

かす子「だれかが時間をはかって、「始め」と「止め」のあいずをしましょう。」

広「1回ごとに、もっと向上するように、しっかり努力したいね。」

正男「めいめいのノートに、レコードをつけよう。」

進「これで、自分たちの計算の力のつきかたが、わかるね。」

正男「それを、学級の平均点とくらべよう。」

この時、先生は、

「みんないい考えです。ここで、テストののどの問題も正しくできるようになりましょう。そして、学級の平均点を10点にするくらいのいきごみで、努力しましょう。」

といわれました。

よせ算の問題

27ページのようなよせ算のしかたについて、つぎのように話しました。

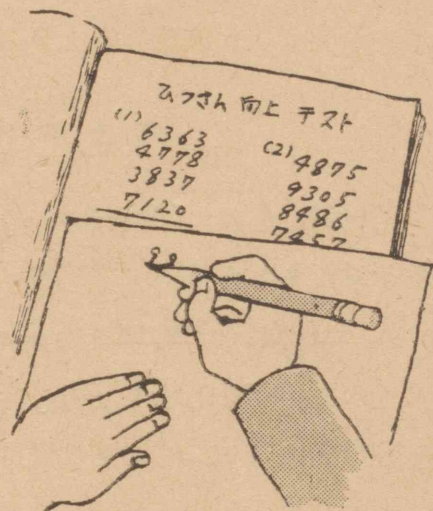
(1) 紙を問題の下において、答だけ書きましょう。

(2) テスト 1Aの第一段の問題がすんだら、その答のところを外に折りまげて、その紙を第二段の問題のすぐ下において、答を書きましょう。

(3) ちょうど、ひとつの計算が終ろうとしている時でも、「止め」のあいずがあれば、すぐやめましょう。

(4) 学級で、ひとつのテストが終わった時、平均点以上になっていなかったら、自分で練習して、また、学級でそのテストをする時には、平均点以上になるようにしましょう。

私たちも、このように、向上テストを始めましょう。



筆算 向上テスト 一

テスト 1A—よせ算 (4分)

① 6363 4778 3837 7120	② 4875 9305 8486 7457	③ 5108 6389 5871 8598	④ 4036 3794 5965 8724
⑤ 2528 4062 1698 6975	⑥ 8385 7332 7741 2149	⑦ 4529 7676 1874 4238	⑧ 7336 8989 2779 9146

テスト 1B—よせ算 (5分)

① 727 546 850 451 295 341 970 828 617 718 954	② 704 196 657 517 328 932 113 300 963 962 765	③ 822 929 760 104 877 263 318 807 684 121 891	④ 875 859 258 447 890 207 341 922 302 882 378	⑤ 923 109 492 675 758 600 186 436 254 939 687
---	---	---	---	---

10点まん点になおす表

正男君たちは、テスト1Aをしました。答をしらべると、正しい答ができた人数は、つぎのようでした。

1題を1点とすると、

正しい答の数 人数

8 10..... $8 \times 10 = 80$

7 15..... $7 \times 15 = 105$

6 15..... $6 \times 15 = 90$

5 5..... $5 \times 5 = 25$

4 3..... $4 \times 3 = 12$

$80 + 105 + 90 + 25 + 12 = 312$総点

$312 \div 48 = 6.5$平均

平均点は6.5となります。

つぎに、テスト1Bをしました。

正しい答の数 人数

5 × 10 = 50

4 × 18 = 72

3 × 16 = 48

2 × 4 = 8

総点

50

72

48

+ 8

178

平均

$\frac{178}{48}$

= 3.7

テスト1Bの平均点は約3.7です。

先生「テスト1Aの平均6.5と、テスト1Bの平均3.7とはどちらが、よい成績でしょう。」

ふみ子「6.5の方が3.7よりよい点数だから、テスト1Aの方がよいと思います。」

広「1Aと1Bは、テスト問題の数がちがいますから、どちらがよいか、わかりません。」

先生「どちらがよいか、わからないのでは、くらべられないのでこまりますね。何とかして、くらべるくふうはないものでしょうか。」

正男「さつまいもや米のでき方をくらべたことがありましたね。同じ面積のでき高をしらべて、くらべました。」

先生「そのとおりです。これも、同じように考えることができます。テスト問題の数がちがっていても、全部できたら10点として、点をつける方法があります。それを10点まん点といいます。」

広「問題の数が10題のときには、1題を1点にすればよいわけですね。」

先生「そうです。5題とか、8題とか15題のときは、

1 題を何点にすればよいでしょう。」

正男「5 題のときは $10 \div 5 = 2$
 8 題のときは $10 \div 8 = \frac{10}{8} = \frac{5}{4}$
 15 題のときは $10 \div 15 = \frac{10}{15} = \frac{2}{3}$
 となります。」

進「そうすると、5 題のテスト問題では、

4 題が正しいときには $2 \times 4 = 8$
 3 題が正しいときには $2 \times 3 = 6$
 2 題が正しいときには $2 \times 2 = 4$
 1 題が正しいときには $2 \times 1 = 2$
 全部がちがったときには $2 \times 0 = 0$
 となりますね。」

広「8 題のテスト問題では

全部できた人は $\frac{5}{4} \times 8 = 10$
 7 題が正しいときには $\frac{5}{4} \times 7 = \frac{35}{4} = 8.75$
 6 題が正しいときには $\frac{5}{4} \times 6 = \frac{15}{2} = 7.5$
 5 題が正しいときには $\frac{5}{4} \times 5 = \frac{25}{4} = 6.25$

 1 題が正しいときには $\frac{5}{4} \times 1 = \frac{5}{4} = 1.25$
 全部がちがったときには $\frac{5}{4} \times 0 = 0$ です。」

正男「15 題のテスト問題のでは、

全部できた人は $\frac{2}{3} \times 15 = 10$
 14 題が正しいときには $\frac{2}{3} \times 14 = \frac{28}{3} = 9.33\cdots$
 13 題が正しいときには $\frac{2}{3} \times 13 = \frac{26}{3} = 8.66\cdots$

このように分数の計算をして、小数になおせば、全部できます。

この計算を、いちいちしたのではたいへんですから、表を作っておけばよいと思います。」

先生「それはよいことに気づきましたね。みんな、計算のしかたが、わかりましたから、これから表を作りましょう。見やすくするために、つぎのようにしたらどうでしょう。表には、 $\frac{1}{10}$ の位を四捨五入して、整数の点を出して、記入しましょう。いまわかっている数のところだけ、いっしょに作りましょう。」

テスト問題 の 数	正しい答の 数																
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
5	0	2	4	6	8	10											
8	0	1				6	8	9	10								
15														9	9	10	

私たちが、正男君たちのように計算して、表を作りましょう。そして、つぎの表とくらべてみましょう。

点数早見表

テスト問題の 数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
3	0	3	7	10													
4	0	3	5	8	10												
5	0	2	4	6	8	10											
6	0	2	3	5	7	8	10										
8	0	1	3	4	5	6	8	9	10								
9	0	1	2	4	4	6	7	8	9	10							
10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10						
12	0	1	2	3	3	4	5	6	7	8	8	9	10				
15	0	1	1	2	3	3	4	5	5	6	7	7	8	9	9	10	
16	0	1	1	2	3	3	4	5	5	6	6	7	8	8	9	9	10

つぎの問題をなさい。

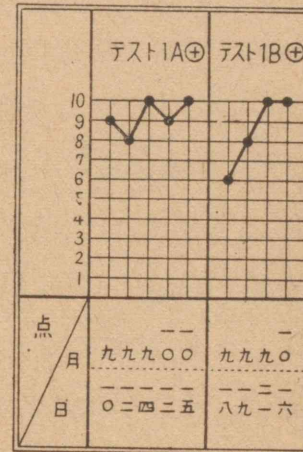
(1) 上の表を見て、テスト A (8 題) で、6 題できた人は、何点になるでしょう。5 題, 4 題, 3 題, 2 題, 1 題, 全部ちがった人は何点になるでしょう。

(2) 上の表で、下のテストの点数を見つけなさい。

テスト問題 の数	11	11	8	10	12	4	16	12	15	15
正しい答の数	8	10	5	7	11	3	13	8	14	11

レコードのつけ方

正男君は、テストのレコードをグラフに書きました。下のらんには、テストをした日づけを、横のらんには、テストの点数を書きました。



正男君は、9月12日のテストでは何点でしたか。

9月10日と14日のテストの点とくらべましょう。

テスト 1B をはじめてした日は何日で、何点ですか。

平均点とくらべること

正男君たちは、自分のせいせきグラフに、学級の平均点も書き入れて、両方の点数をくらべました。

進「自分の点数と学級の平均点を、いっしょに書くと、自分の位置がよくわかるね。」

先生「学級の平均点をもっとよくなるように、みんなで努力しましょう。」

私たちが、このように、学級の平均点をグラフに書

いて 自分のもくらべましょう。

つぎの問題をなさい。

(1) 右のグラフの実線は、進君
ので、点線は学級平均の点数です。

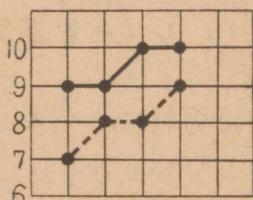
10月5日には、学級の平均点は
何点でしたか。10月11日には何
点でしたか。進君の5日と11日の
点数は、それぞれ何点でしたか。

(2) つぎのグラフでは、実線は
明夫君で、点線は学級の平均点で
す。

10月17日のテストでは、明夫
君は平均点よりずっと下でした。18日には少し上がり
ましたが、平均点もまた上がりました。

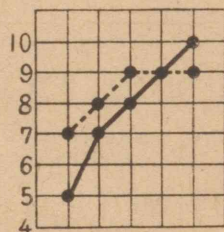
10月22日には、明夫君の点数は何点でしたか。ま
た学級平均は何点でしたか。

明夫君は、たいそう努力しました。10月23日の明
夫君の点数と、学級の平均点は、どうなりましたか。
24日には、どうなりましたか。



○ ○ ○ ○ ○

五 八 九 一



○ ○ ○ ○ ○

七 八 二 三 四

筆算 向上テスト 二

テスト 2A—ひき算 (3分)

① $\begin{array}{r} 9525 \\ 3856 \\ \hline \end{array}$ ② $\begin{array}{r} 7384 \\ 5188 \\ \hline \end{array}$ ③ $\begin{array}{r} 8406 \\ 4537 \\ \hline \end{array}$ ④ $\begin{array}{r} 9618 \\ 4790 \\ \hline \end{array}$ ⑤ $\begin{array}{r} 8123 \\ 2268 \\ \hline \end{array}$

⑥ $\begin{array}{r} 6714 \\ 5240 \\ \hline \end{array}$ ⑦ $\begin{array}{r} 9306 \\ 1429 \\ \hline \end{array}$ ⑧ $\begin{array}{r} 6657 \\ 4168 \\ \hline \end{array}$ ⑨ $\begin{array}{r} 8213 \\ 3457 \\ \hline \end{array}$ ⑩ $\begin{array}{r} 5352 \\ 3379 \\ \hline \end{array}$

テスト 2B—ひき算 (4分)

① $\begin{array}{r} 16441 \\ 12053 \\ \hline \end{array}$ ② $\begin{array}{r} 47224 \\ 28842 \\ \hline \end{array}$ ③ $\begin{array}{r} 81605 \\ 67945 \\ \hline \end{array}$ ④ $\begin{array}{r} 51000 \\ 33265 \\ \hline \end{array}$

⑤ $\begin{array}{r} 38331 \\ 22361 \\ \hline \end{array}$ ⑥ $\begin{array}{r} 96028 \\ 38122 \\ \hline \end{array}$ ⑦ $\begin{array}{r} 96530 \\ 42792 \\ \hline \end{array}$ ⑧ $\begin{array}{r} 74254 \\ 64634 \\ \hline \end{array}$

⑨ $\begin{array}{r} 96442 \\ 89764 \\ \hline \end{array}$ ⑩ $\begin{array}{r} 69220 \\ 33606 \\ \hline \end{array}$ ⑪ $\begin{array}{r} 30409 \\ 21831 \\ \hline \end{array}$ ⑫ $\begin{array}{r} 73879 \\ 71780 \\ \hline \end{array}$

⑬ $\begin{array}{r} 62891 \\ 43512 \\ \hline \end{array}$ ⑭ $\begin{array}{r} 73006 \\ 15595 \\ \hline \end{array}$ ⑮ $\begin{array}{r} 80463 \\ 19603 \\ \hline \end{array}$ ⑯ $\begin{array}{r} 74463 \\ 38014 \\ \hline \end{array}$

ま と め

この単元では、つぎのことを学習しました。

- (1) 計算力をつける方法について。
- (2) 向上テストについて
 - ㉑ テストの点数を、10点まん点になおすわけ。
 - ㉒ 10点まん点になおす表の作り方と使い方。
 - ㉓ 時間をきめて、テストをする。
 - ㉔ テストの結果を10点まん点になおして、グラフに書く。学級平均の点数も、同じ用紙に記入して、両方の点数をくらべる。
- (3) グラフの書き方は、下にテストをした日づけを書き、左横に0, 1, 2, …, 9, 10と目もり、テストの点数を書き入れて、折れ線グラフを書くこと。

自分の点数は、実線——で、学級平均の点数は点線……で書くこと。

筆算 向上テスト 三

テスト 3A——かけ算 (問題を写した後、4分)

- | | | |
|---------------------|---------------------|---------------------|
| (1) 62×351 | (2) 73×173 | (3) 19×587 |
| (4) 84×902 | (5) 26×694 | (6) 26×278 |
| (7) 59×326 | (8) 38×173 | (9) 85×894 |

テスト 3B——かけ算 (問題を写した後、4分)

- | | | |
|----------------------|----------------------|----------------------|
| (1) 769×253 | (2) 947×847 | (3) 533×813 |
| (4) 918×964 | (5) 562×657 | (6) 475×929 |

テスト 3C——わり算 (問題を写した後、4分)

- | | | |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| (1) $78 \overline{)24736}$ | (2) $92 \overline{)42059}$ | (3) $61 \overline{)43249}$ |
| (4) $47 \overline{)10293}$ | (5) $38 \overline{)32137}$ | (6) $85 \overline{)30435}$ |

テスト 3D——わり算 (問題を写した後、4分)

- | | | |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| (1) $64 \overline{)41440}$ | (2) $56 \overline{)50579}$ | (3) $71 \overline{)37133}$ |
| (4) $31 \overline{)34435}$ | (5) $39 \overline{)29172}$ | (6) $58 \overline{)33263}$ |

(注意) それぞれのテストで時間が少しでも余ったら、答をたしかめましょう。

筆算 向上テスト 四

テスト 4A—よせ算 (問題を写した後, 4分)

- ① $3\frac{3}{4} + 1\frac{1}{2}$ ② $8\frac{1}{4} + 2\frac{1}{8}$ ③ $1\frac{2}{5} + 7\frac{1}{2}$ ④ $4\frac{3}{5} + 2\frac{2}{3}$
 ⑤ $4\frac{3}{4} + 8\frac{3}{8}$ ⑥ $1\frac{7}{16} + 2\frac{5}{16}$ ⑦ $5\frac{1}{2} + 3\frac{1}{3}$ ⑧ $7\frac{5}{6} + 2\frac{1}{4}$

テスト 4B—ひき算 (問題を写した後, 3分)

- ① $4\frac{5}{8} - 1\frac{1}{2}$ ② $2 - 3\frac{7}{8}$ ③ $7\frac{1}{2} - 5\frac{1}{3}$
 ④ $2\frac{9}{10} - 2\frac{3}{10}$ ⑤ $5\frac{1}{4} - 3\frac{7}{8}$ ⑥ $7 - 2\frac{5}{12}$
 ⑦ $8\frac{1}{16} - 6\frac{9}{16}$ ⑧ $9\frac{3}{4} - 7\frac{1}{3}$ ⑨ $3\frac{7}{10} - 1\frac{4}{5}$

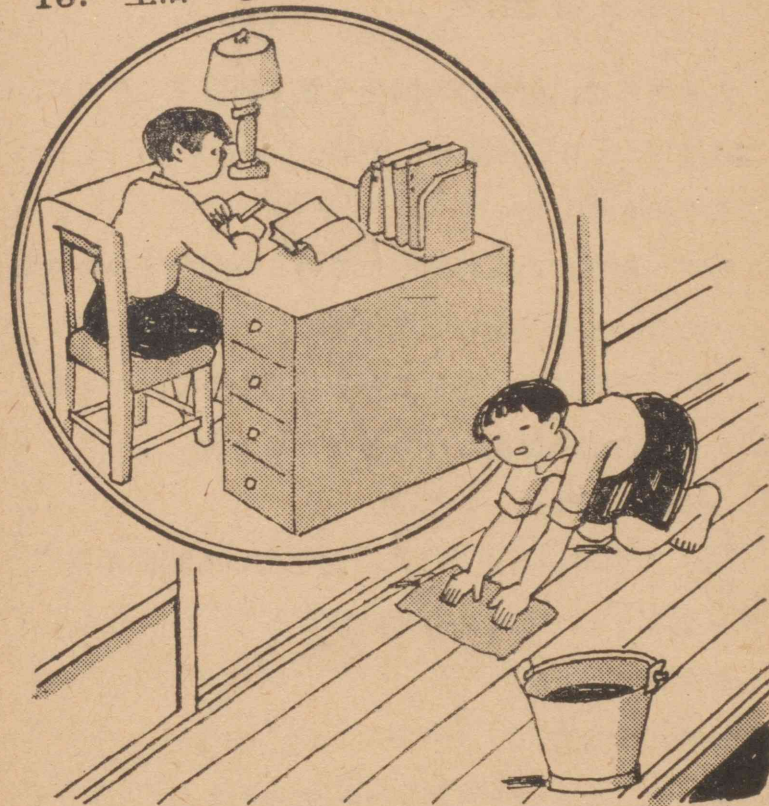
テスト 4C—かけ算 (問題を写した後, 2分)

- ① $\frac{2}{3} \times 39$ ② $\frac{7}{8} \times 6$ ③ $4\frac{1}{2} \times 15$
 ④ $\frac{1}{4} \times 19$ ⑤ $\frac{3}{10} \times 5$ ⑥ $7\frac{3}{8} \times 56$

テスト 4D—わり算 (問題を写した後, 2分)

- ① $\frac{4}{5} \div 2$ ② $\frac{9}{10} \div 3$ ③ $3\frac{3}{4} \div 5$
 ④ $\frac{7}{9} \div 3$ ⑤ $\frac{9}{13} \div 6$ ⑥ $3\frac{1}{7} \div 11$

13. 生活のしらべ



この单元では、生活の時間わりや家計費の全体に対するわりあいをしらべながら、正方形グラフ、帯グラフ、円グラフの書き方、読み方について、学習しましょう。

日 日 の 生 活

広君たちは、毎日の時間をうまく利用するために、これまで、1日の時間をどう使っていたかを、しらべることになりました。

かすこ「起きている時間やねている時間などのわりあいを、しらべたいと思います。」

広「それには、起きている時間の中で、おもなことを、えらび出したらどうでしょう。」

この時、先生は

「今、広君がいったように、起きている時間の中で、おもなことを、どんなに分けてしらべるか、考えてごらんなさい。」

といわれました。

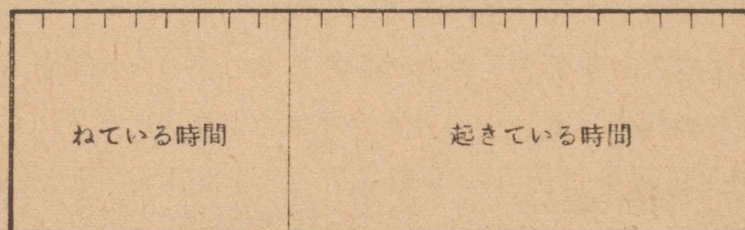
そして、つぎのように、まとまりました。

- (1) 学校の生活の時間
- (2) 手つだいの時間
- (3) 家での勉強の時間
- (4) 自由の時間
- (5) その他

みんなはめいめい、1日の生活の時間をしらべて、グラフに書くことにしましょう。

帯グラフの書き方

進君は、ねている時間と起きている時間をしらべてつぎのようなグラフを書きました。



そして、つぎのように説明しました。

「生活時刻表から思いついて、長方形を24等分して書けば、1日の24時間の生活が、うまく表わされると思いました。ねている時間は9時間で、起きている時間は15時間です。」

明子さんは、

「ねている時間は、1日の約三分の一であることが、ひと目でわかりますね。」

といいました。

みつお君は、

$$\begin{aligned} \text{「(ねている時間) : (起きている時間)} &= 9 : 15 \\ &= 3 : 5 \end{aligned}$$

のわりあいがよくわかりますね。」

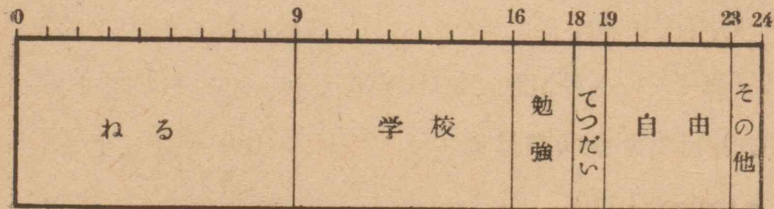
といました。これを聞いておられた先生は、

「このように、帯の形をしている長方形の面積で、全体を表わし、その各部分のわりあいを、くぎって書いたものを、帯グラフといます。」

といわれました。

- (1) 帯グラフは、全体と各部分のわりあいが、よくわかる。
- (2) 各部分どうしのわりあいも、わかりやすい。

広君は、つぎのようなグラフを書きました。



起きている時間を、学校・勉強・てつだい・自由・その他の部分に分けました。

広君は、

「ねている時間と学校にいる時間は、合わせて、16時間あって、1日の三分の二にあたります。これだけは、きまった時間ですから、残りの三分の一、つまり8時間を、じょうずに使うくふうをしようと思います。」

と発表しました。

かず子さんはこれを聞いて、

「今まで、家でしていた2時間の勉強は、なかなか長いと思っていましたが、帯グラフにしてみると、これだけでずいぶんせまいものになりますね。」

といました。

広君たちは、図書館で本をしらべていると、つぎのようなグラフが、見つかりました。

各くぎりの中に、数字が書いてありました。その数字を合計すると100になりました。

これで、この帯グラフは、全体を100等分してあることがわかりました。

わが国の職業別の人口（国勢調査）

農	林	工	公務自由	商	交 通	その他
(50)		(21)	(7)	(6)	(4)	(12)

先生にこのこととお話すると、先生は、

「よく気がつきましたね。そのとおりです。帯グラフは、ふつう、このグラフのように、全体を100等分して書きます。

このグラフでいえば、農林業は全体の $\frac{50}{100}$ にあたり、工業は全体の $\frac{21}{100}$ にあたります。昭和22年の国勢調査では、日本全体の人口約7200万人の中、約3388万人が職業を持っていました。この約3388万人の中 $\frac{50}{100}$ が農林業の人数であることを表わしています。」
といわれました。

広君たちは、これを聞いて、農林業の実際の人口をつぎのように計算しました。

まず、100のうちの1にあたる人数は、

$$33880000 \div 100 = 338800 \quad \text{で、農林業は、50}$$

だから、

$$338800 \times 50 = 16940000$$

農林業の人口は、約1694万人であることが、わかりました。

先生は、これを見られて、

「全体を100としておけば、上のように、計算が便利です。」

100の中、いくつかということがわかっていれば、全体に対する各部分のわりあいが、よくわかるし、各部分どうしのわりあいもよくわかりますね。

このように、全体を100として、各部分のわりあいを考えていく方法が、便利だから、100等分するグラフがよく使われるのです。」

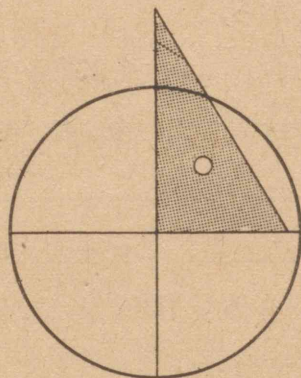
と教えてくださいました。

- ① 各職業の人はそれぞれ、百分のいくつですか。
- ② 各職業別の連比を書きなさい。
- ③ 実際の人数は、それぞれ何人ですか。

分 度 器

広君は、1日の生活を一つの円に表わしてみたいと考えました。

1日は24時間ですから月を24等分すればよいと考えて、まず、直径をひき、右の図のように、三角定木をあてて、4等分しました。



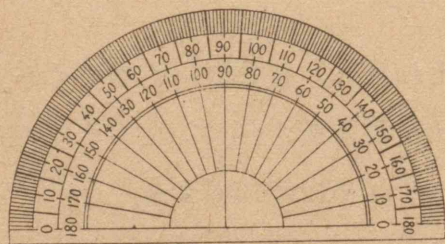
$24 = 4 \times 6$ ですから、

こんどは、直角を6等分すればよいと考えました。

しかし、直角の6等分がわかりませんので、先生にたずねました。

先生は、

「角の大きさをはかるには、分度器があります。これを



使えば、直角の6等分はすぐわかります。」

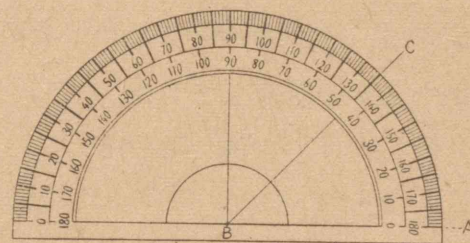
といって、左のような分度器を

見せて、つぎの話しをしてくださいました。

「むかしの人は、太陽が地球のまわりを360日で円形をえがいて、1まわりすると考えました。そこから360度がうまれてきたということです。」

分度器は、半円を180等分してある。ひと目を1度といい、 1° とも書く。

右図のABCの角の大きさをはかるには、



- (1) 分度器のまん中の点を角の頂点Bにかさねる。
- (2) 分度器の 0° の線を、きちんとBAにかさねる。
- (3) Aの方から目もりを読んで、 45° となる。

図のように、目もりが二通りつけてあるものもある。

これは、右からでも左からでも、目もりが読めて便利である。

広君は、三角定木の直角のところに分度器をあててみました。 90° になりました。

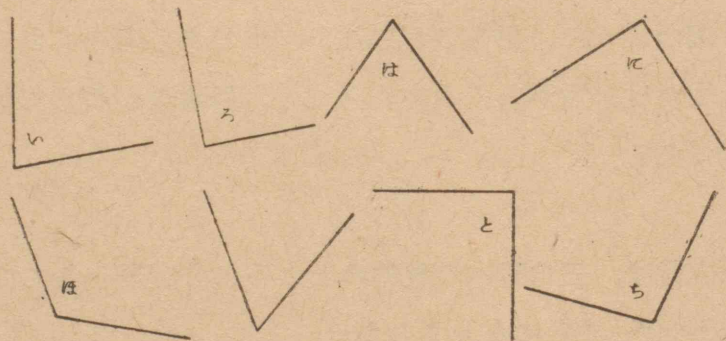
広君は、46 ページの図を見て、一まわりの角は、4 直角だから、度数では、 $90^\circ \times 4 = 360^\circ$ になることに気がつきました。

1 直角 = 90°
1 まわりの角は 360°

広君は、直角が 90° かわかったので、1 時間は何度にあたるかと計算しました。

$$90^\circ \div 6 = 15^\circ$$

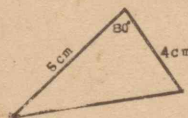
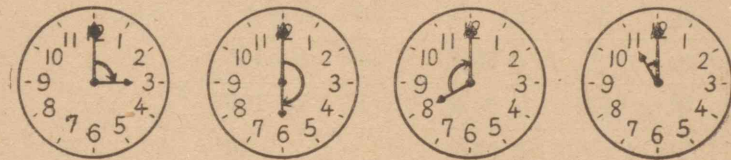
(1) 下の角のうち、直角より大きい角、小さい角、等しい角はどれか、分度器を使わないで答えなさい。また、分度器で、それぞれの角をはかりなさい。



(2) 分器を使って、つぎの角を書きなさい。

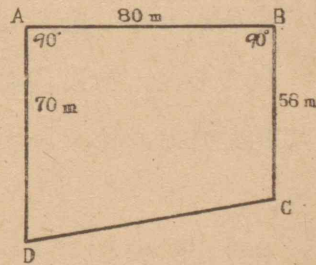
20° 53° 65° 128° 155°

(3) つぎのとけいの二つのはりの間の角は、それぞれを何度りでしょう。



(4) 左の三角形の 2 倍になるような相似形の三角形を書きなさい。

(5) 右のような地面があります。千分の一のしゆく図を書きなさい。



そのしゆく図をはかって、つぎの部分の実際の大きさをもとめなさい。

- ㊶ CD の長さ。
- ㊷ 角 C と角 D の大きさ。

円グラフ

広君たちは、48 ページで、1時間が 15° にあたることがわかりましたので、下のような表を作りました。

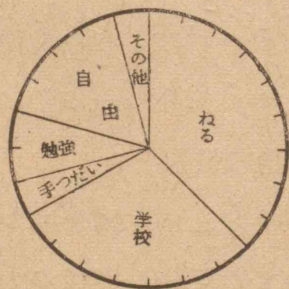
生活	時間	360° に対するわりあい
ねる	9 時間	$15^\circ \times 9 = 135^\circ$
学校	7 時間	$15^\circ \times 7 = 105^\circ$
手つだい	1 時間	15°
勉強	2 時間	$15^\circ \times 2 = 30^\circ$
自由	4 時間	$15^\circ \times 4 = 60^\circ$
その他	1 時間	15°

そして、右のような図ができあがりました。

私たちも、分度器を使って角をたしかめてみましょう。

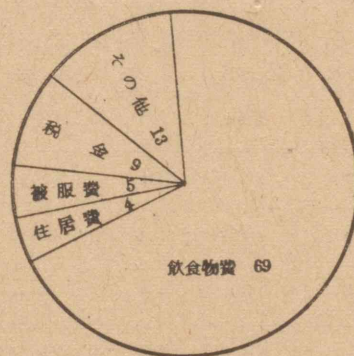
先生は、

「このようなグラフを、円グラフといいます。帯グラフのように、全対に対する各部分のわりあいが、よくわかるでしょう。」といわれました。



家計費

かず子さんたちが、生活展覧会を見にいった時、下のような家計費の円グラフが出ていました。



グラフの数字は、全体を100としたときの、それぞれのわりあいを表わしています。

② この円グラフの数を読んで、各部分をよせたものが、100になるかたしかめましょう。

③ 各部分の連比を書きましょう。

④ 1か1月万円の収入の人は、それぞれ何円ずつ使うことになるでしょう。

みんなは、全体を100としたときの各部分のわりあいがわかったとき、円グラフを書くにはどうすればよいだろうと考えました。

円全体が 360° だから、 $360^\circ \div 100 = 3.6^\circ$ で、1目を 3.6° のわりあいで、分度器ではかればよい

ことがわかりました。

私たちも、この方法で、昭和7年の給料生活者の生活費をつぎの表を見て、円グラフに書きなさい。

生活費 (100)	給料生活者		労働者		農業者
	大正 15年	昭和 7年	大正 15年	昭和 7年	大正 15年
飲食物費	33	32	40	36	46
住居費	18	19	16	17	15
被服費	5	5	5	5	6
光熱費	14	13	13	12	8
その他	30	31	26	30	25

上の表でほかの円グラフに書きましょう。

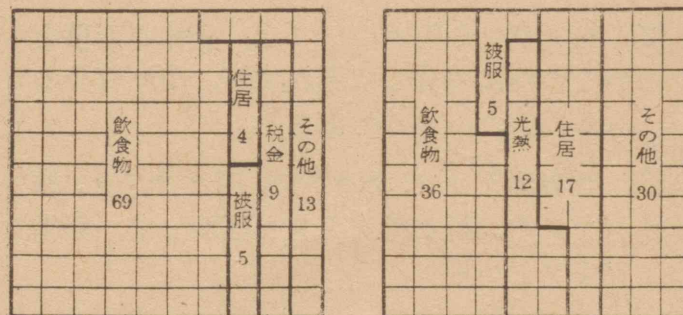
みんなは、帯グラフや円グラフを、100等分する方法で、研究しているうちに、百等分法でもっと書きやすいグラフはないかと考えました。

正男「全体が100だから、100の方眼を使えば、おもしろいものができそうな気がするね。」

広「たて横とも10にして方眼紙に書けばどうだろう。」

先生「それはよいことに気がつきました。たても横も10にすれば、正方形になって、100等分がかんたんにできるから便利ですね。これも形のなまえをとって、正方形グラフといいます。」と教えてくださいました。

広君たちは、生活費のグラフを、つぎのように書きました。これを先生に見ていただくと、先生は、



「よくできましたね。グラフは、どれでも、見やすくするために書くのだから、正方形グラフでは、各部分のこぼこを、うまく組み合わせることが、たいせつですね。」といわれました。

帯・円・正方形グラフは、どれも、全体に対する部分のわりあいを、面積で表わしています。これらの三つを、棒グラフや折れ線グラフと区別して、面積グラ

フといいます。

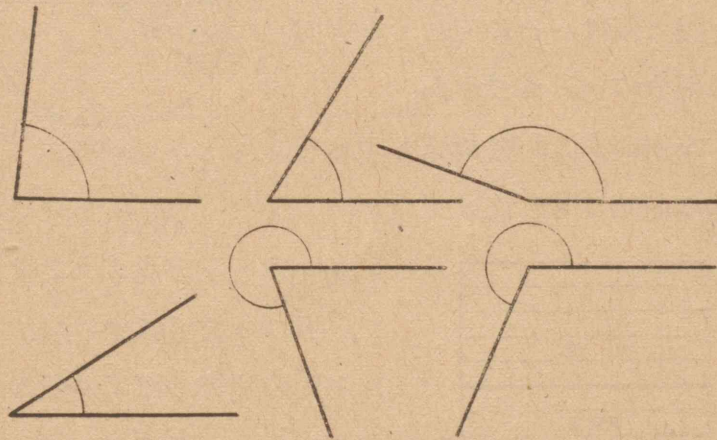
ま と め

この单元では、つぎのことを学習しました。

- (1) 1直角=90° 1回転の角度=360°
分度器を使って、角をはかったり、書いたりする。
- (2) 帯グラフや円グラフでは、全体の面積をいくつかに等分して表わすが、100等分のしかたが、ふつうである。
- (3) 正方形グラフ、帯グラフ、円グラフを、棒グラフや、折れ線グラフと区別して、面積グラフという。
- (4) 面積グラフは、棒グラフや折れ線グラフにくらべて、つぎのようなくちょうがある。
 - ㊸ 全体に対する各部分のわりあいがよくわかる。
 - ㊹ 各部分どうしをくらべることもできて、便利である。
- (5) 面積グラフの書き方や、読み方になれる。

練 習

- (1) 二とおりの三角定木の各の角度を分度器ではかりなさい。
- (2) つぎの角は、それぞれ何度ですか。分度器を使ってしらべましょう。



- (3) つぎの大きさの角を、分度器を使って書きましよう。

18° 36° 85° 120° 170° 300°

- (4) あき子さんのおかあさんは、午後10時にねて、午前6時に起きられます。おかあさんのねておられる

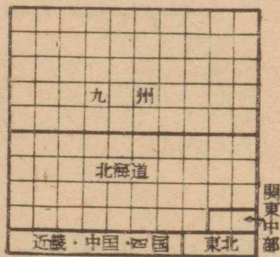
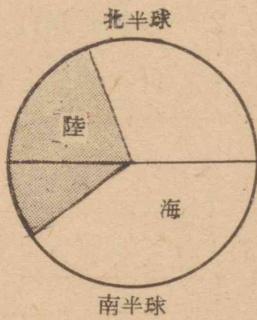
時間と、起きておられる時間は、それぞれ、1日の何分のいくつですか。また、ねておられる時間と起きておられる時間の比は、どうですか。

これを、帯グラフ、円グラフで表わしましょう。

(5) 右の円グラフは、地球表面の陸と海とのわりあいを表わしたものです。

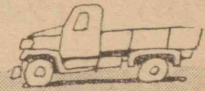
陸と海は、それぞれ、全表面の何分のいくつですか。

全表面が5.1億 km^2 とすれば陸の面積はどれだけですか。

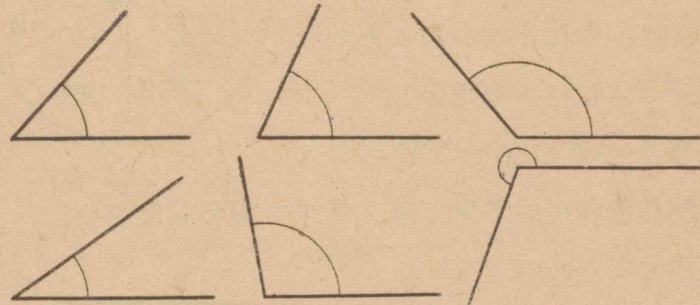


(6) 左の正方形グラフを見て、五つの地方に分けて、それぞれの地方の石炭の量のわりあいをしらべましょう。

テスト (12)



(1) つぎの角は、それぞれ何度ですか。分度器を使ってはかりなさい。



(2) つぎの大きさの角を、分度器を使って書きなさい。 30° 55° 78° 140° 270°

(3) つぎの計算をなさい。

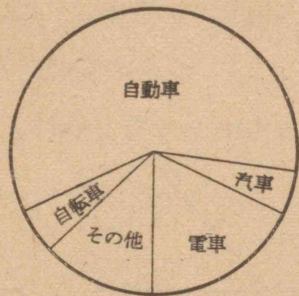
- ㉑ 12時-6時40分
- ㉒ 4時20分+3時50分
- ㉓ 11時10分-5時30分
- ㉔ 8時35分+7時15分
- ㉕ 12時-7時50分+2時55分-1時30分

(4) みつお君のおとうさんは、きのう午前7時20分に家を出て、午後5時30分に家に帰られました。外出の時間は、どれだけでしょう。

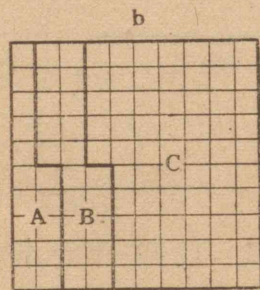
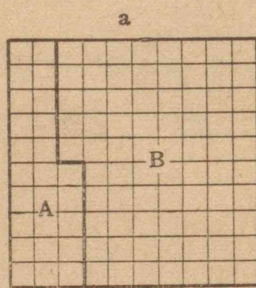
(5) つぎの図は、全国交通事故(昭和22年)を円グラフに表わしたものです。

㉑ 事故の多い順に、書いてごらんください。

㉒ それぞれのわりあいをしらべなさい。

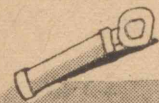


(6) つぎのように表わされた正方形グラフを、帯グラフで表わしなさい。



(7) つぎの 中に、適当に書き入れなさい。

円グラフ、正方形グラフ、 は、どれも、 に対する のわりあいを、面積で表わしています。これらの三つを、棒グラフや折れ線グラフと区別して、 といいます。



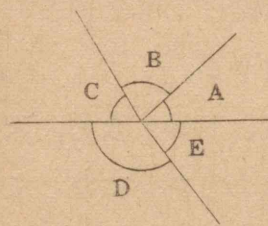
これまでのれんしゅう



(1) つぎの計算をなさい。

2×2	3×3	4×4	5×5	6×6
7×7	8×8	9×9	10×10	11×11
12×12	13×13	14×14	15×15	16×16
17×17	18×18	19×19	20×20	21×21

(2) 左の図の角は、それぞれ



何度でしょう。目分量でその角度をはかってみて、分度器でかかって、目測したものくらべてごらんください。

そして、これらの角を、みんなよせてごらんください。何度になりますか。

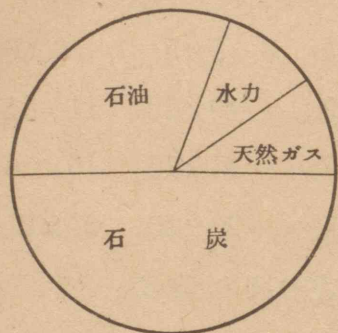
(3) 分度器で、つぎの角を作ってみましょう。

15° 47° 65° 90° 120° 240°

(4) 実際に 1 km の長さは、5万分の1の地図では、どれだけの長さになりますか。また、20万分の1の地図では、どうですか。

上の二つの長さの比は、どうなりますか。

(5) 鉄道で、東京、門司間 1100 km は、200 万分の 1 の地図では、どれだけの長さに表わされますか。



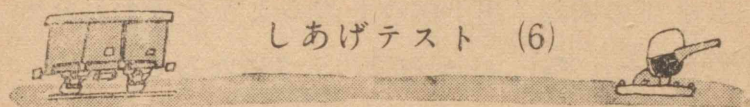
(6) 左の図は、最近のアメリカでの動力のもとになる四つのものについて、そのわりあいを示したものです。

① このグラフを何といいますか。

② 全体を 100 とすると、石炭、石油、水力、天然ガスは、それぞれ、どんなわりあいになっていますか。

(7) 行夫君の家の 1 年間の収入は、こく類 $7,5000$ 円まゆ $4,8000$ 円、雑収入 $3,0000$ 円でした。

- ① 三つの収入の比は、どうですか。
 ② こく類は、全体の何分のいくつですか。
 ③ まゆは、全体の何分のいくつですか。
 ④ 雑収入は、全体の何分のいくつですか。
 ⑤ 行夫君の家の 1 年間の収入を、三つの種類に分けた帯グラフに表わしましょう。また、円グラフに表わしましょう。



しあげテスト (6)

(1) つぎの式を計算なさい。

$$\begin{array}{r} 800 - 236 - 357 \\ 52.31 - 38.46 + 19.18 \\ 62 - 15.2 + 1.9 + 3.7 - 7.9 - 2 + 10.7 \end{array} \quad \begin{array}{r} 53.7 + 32.6 - 79.2 \\ 133.02 + 81.92 - 92.18 \end{array}$$

(2) つぎの計算をなさい。

時 分	時 分	時 分	時 分
3 28	7 52	6 47	11 23
+ 5 14	- 2 35	+ 3 15	- 4 56

$$4\text{日}3\text{時}15\text{分} - 1\text{日}19\text{時} + 2\text{日}52\text{分} - 7\text{時}8\text{分}$$

(3) つぎの問題を計算なさい。

① しゆく尺 $\frac{1}{1000}$ の地図で、 7.6 cm の長さは、実際には、どれだけになるでしょう。

② 実際に 4 km あるところは、 $\frac{1}{5000}$ の地図では、どれだけの長さになるでしょう。

(4) 5 万分の 1 の地図で、 1 cm 方眼の面積は、実際には、どれだけになりますか。

また、この方眼の数 72 では、実際の面積は、どれだけになるでしょう。

(5) 下の図は、川上村の土地のようを表わしたものです。それぞれ、どれだけの広さになるでしょう。全面積は 1200 ha です。

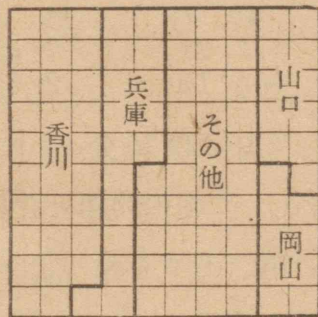
田	畑	森林	その他
---	---	----	-----

(6) 右の正方形グラフは、わが国の塩の生産高を表わしたものです。

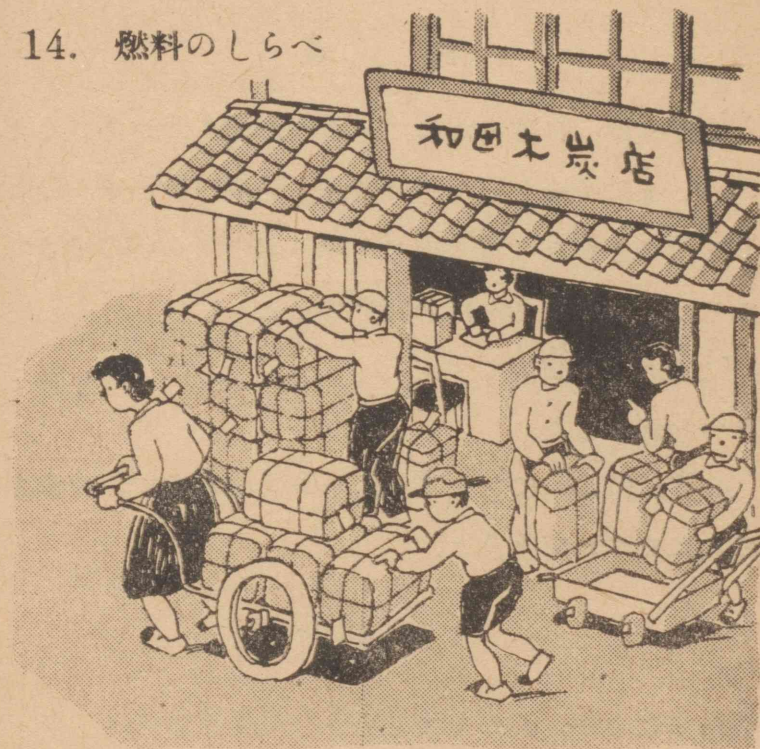
㉑ 各県の塩の生産高は、それぞれ、全体の 100 分のいくつにあたるでしょう。

㉒ また、それは何万 kg ですか。

和和 21 年 4 月統計
総量約 50 万 kg



14. 燃料のしらべ



みなさんの家では、燃料にどんなものを使っていますか。

この單元では、木炭の重さについて考えたり、炭屋さんや駅で木炭の数や重さを計算したりしながら、重さの単位に貫や匁のあること、貫・匁・kg・g・t の関係などについて学習しましょう。

炭 俵

きょうは、日曜日なので、みつお君もおかあさんと
いっしょに炭俵を運んでいます。1 俵の炭俵は、ひと
りで持つとかなり重く感じます。どのくらいの重さで
あるか、おかあさんにお聞きすると、

「これは、4 貫^{かんびょう}俵です。」

といわれました。

4 貫が何 kg にあたるかわかりませんので、おかあ
さんにたずねてみると、

$$4 \text{ 貫} = 15 \text{ kg}$$

であることが、わかりました。

買ってきた木炭は、4 俵でした。木炭 4 俵の重さは、
何貫で何 kg でしょう。

みつお君は、1 貫は何 kg であるかを計算してみました。
た。

$$1 \text{ 貫} = \frac{15}{4} \text{ kg} = 3.75 \text{ kg}$$

おかあさんは、4 俵のうち半俵だけを、だんぼう用

として別の箱に入れておくといっておられます。

みつを君は、半俵は何 kg であるか計算してみました。
た。

$$2 \text{ 貫} = \frac{15}{4} \text{ kg} \times 2 = \frac{15 \times 2}{4} \text{ kg} = \frac{15}{2} \text{ kg} = 7\frac{1}{2} \text{ kg}$$

で、7.5 kg であることがわかりました。

残りの 14 貫も、kg になおしてみますと、

$$\frac{15}{4} \text{ kg} \times 14 = \frac{15 \times 14}{4} \text{ kg} = \frac{105}{2} \text{ kg} = 52\frac{1}{2} \text{ kg}$$

で、52.5 kg となりました。

(1) 上の計算では、1 貫 = $\frac{15}{4}$ を使ったのですが、
1 貫 = 3.75 kg を使って計算しても、同じ答になるは
ずです。たしかめてみましょう。

(2) つぎを、kg 単位で表わしなさい。

3 貫 5 貫 14 貫 25 貫 60 貫

この間、米が 12 kg 配給になったことを思い出した
みつお君は、これを貫で表わしてみようと考えました。

$$1 \text{ kg} = \frac{4}{15} \text{ 貫}$$

ですから、

$$12 \text{ kg} = \frac{4}{15} \text{ 貫} \times 12 = \frac{4 \times 12}{15} \text{ 貫} = \frac{16}{5} \text{ 貫} = 3\frac{1}{5} \text{ 貫}$$

で、3.2 貫となりました。

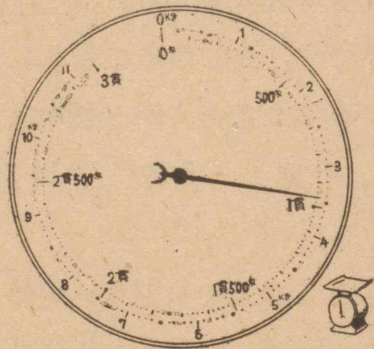
上のようにして、つぎを貫になおしてみましょう。

3 kg 10 kg 18 kg 45 kg 60 kg

みつお君は、だんぼう用の炭 2 貫を、箱に入れよう
 と思って、まず、箱の重さをはかってみました。針が
 下の図のようになりました
 たが、何貫であるかわか
 りません。おかあさん
 にお聞きして、

$$1 \text{ 貫} = 100 \text{ 匁}$$

であることがわかりまし



た。こまかい 1 目が 20 匁であることもわかりました。

- (1) 箱の重さは、何匁あったのでしょうか。
- (2) 買ってきた木炭 4 俵のうち、こん月は 1 俵半だけ使うよていだそうです。これは、何匁ですか。
- (3) 1 か月を 30 日とみて、平均 1 日に何匁ずつ使えるでしょう。
- (4) 12 kg は 5.2 貫でした。これは、何貫何匁ですか。また、8 貫, 1.05 貫, 5.4 貫, 6.502 貫は何匁ですか。

みつお君は、1 匁が何 g であるか計算してみました。

$$4 \text{ 匁} = 15 \text{ g} \qquad 4000 \text{ 匁} = 15000 \text{ g}$$

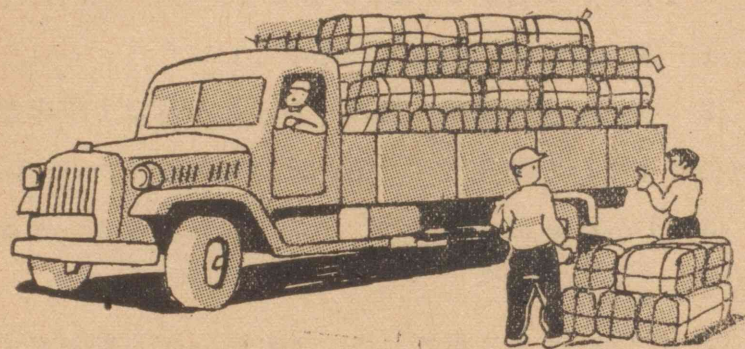
ですから、

$$4 \text{ 匁} = 15 \text{ g}$$

$$1 \text{ 匁} = \frac{15}{4} \text{ g} = 3.75 \text{ g}$$

であることがわかりました。

6 匁, 8 匁, 18 匁, 30 匁, 25 匁を分数を使って g に
 なおしなさい。つぎに小数を使って計算し、答をたし
 かめなさい。



炭屋さん

みつお君は、炭屋さんにいってみました。ちょうど、木炭をいっぱい積んだトラックが着いたところでした。150 俵ぐらいあるかなと思って、トラックのおじさんに聞いてみると、4 貫俵で 240 俵だというので、おどろきました。

みつお君は、みんなでどのくらいの重さの木炭を積んでいるか計算してみました。

$$4 \text{ 貫} \times 240 = 960 \text{ 貫}$$

$$15 \text{ kg} \times 240 = 3600 \text{ kg}$$

貫では 960 貫、kg では 3600 kg であることがわかりました。トラックのおじさんに、

「このトラックは、1000 積みですか。」

とたずねると、おじさんは、

「トラックは、何貫積みとはいわないね。これは、4 t 積みだよ。トラックの後に書いてあるだろう。」

といました。トラックの後を見ると「4t」と書いてありました。

みつお君は、このトラックに 4t まで積むとすると、木炭を、あと何俵積むことができるか考えています。

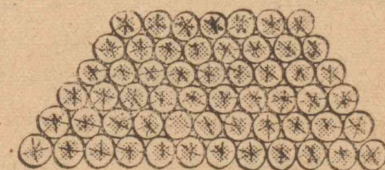
私たちも、計算してみましよう。

炭俵の山

やがて、炭屋さんの前の広場に、下の図のような炭俵の山が、いくつもできました。

みつお君は、1 山に何俵積んであるか、しらべてみました。いちばん下が 12 俵で、1 段ずつ高くなるにつれて、1 段の数が 1 俵ずつ少なくなっています。いちばん上は 6 段目で 7 俵です。

私たちも、しらべてみましよう。



みつお君は、つぎのように計算しました。

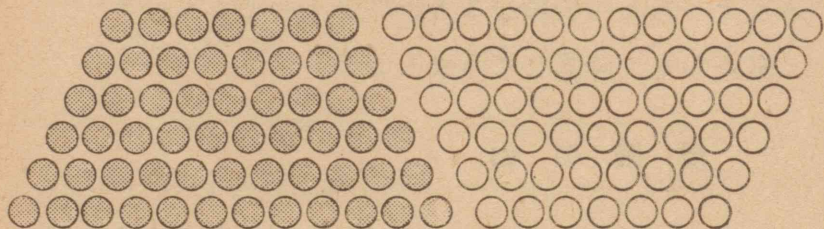
$$7+8+9+10+11+12=57 \text{ (俵)}$$

として、57俵になりました。

あくる朝、学校でこの話をすると、先生が、

「もっと、はやく計算することができます。それを教えてあげましょう。」

といわれて、下のような図を書かれました。



図について、つぎのように説明されました。

$$\begin{array}{r} 7+8+9+10+11+12 \\ +12+11+10+9+8+7 \\ \hline 19+19+19+19+19+19 \end{array}$$

だから、

$$(7+12) \times 6 \div 2 = \frac{19 \times 6}{2} = 57 \text{ (俵)}$$

と計算すればよい。

ことばで書けば、つぎのようになる。

$$(\text{一番下の段の数} + \text{一番上の段の数}) \times \text{段の数} \div 2$$

つぎの、 t は kg に、 kg は t になおしなさい。

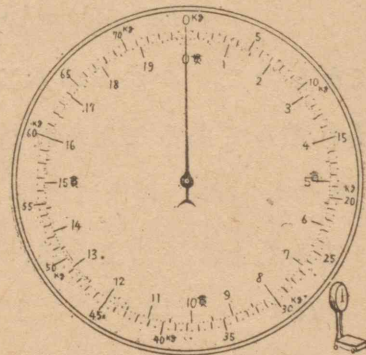
① $6t$ $8.5t$ $10t$ $17t$ $24t$

② $4500kg$ $7000kg$ $1200kg$ $36500kg$

貨 車

みつお君は、駅について貨物列車に運ばれてくる木炭のようすをしらべました。

駅には、体重をはかる時に使うような、はかりがありました。見ると右のようになっています。貫と kg との関係がすぐわかるようになっています。



はかりの近くにいた、かかりの人に聞いてみると、きのう、「トム」という無がい車で、4貫俵の木炭が、434俵着いたとのことでした。

さっそく、何 t になるか計算してみました。

$$15 \text{ kg} \times 434 = 6510 \text{ kg} = 6.51 \text{ t}$$

「トム」というのは、15 t 積みであることを知っていたみつお君は、ずいぶん少ない積み方だと思いました。

「米俵は、1車に何俵ぐらい積んできますか。」

と、たずてみると、

「ゆうべ着いた有がい車『ワム』には、234 俵積んであった。」

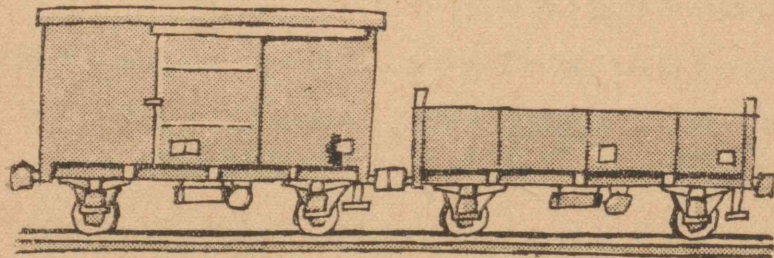
といって、米1俵の重さは、俵もいれてふつう 65 kg として計算するということも教えてくれました。

$$65 \text{ kg} \times 234 = 15210 \text{ kg} = 15.21 \text{ t}$$

になるので、かかりの人に聞いてみると、「ワム」も、15 t 積みであることがわかりました。

みつお君が、貨車には何 t 積みのものがあるかしらべてみると、下のようになり、いろいろありました。

10 t 12 t 15 t 17 t 25 t



ま と め

この單元では、つぎのことを学習しました。

- (1) 重さの単位には、貫・匁があること。
- (2) 1貫 = 1000 匁
- (3) 貫・匁と kg・g との間には、つぎのような関係がある。

$$4 \text{ 貫} = 15 \text{ kg}$$

$$1 \text{ 貫} = \frac{15}{4} \text{ kg} = 3.75 \text{ kg}$$

$$4 \text{ 匁} = 15 \text{ g}$$

$$1 \text{ 匁} = \frac{15}{4} \text{ g} = 3.75 \text{ g}$$

- (4) トラックや貨車には、その種類によって積む荷物の重さにかぎりがあること。

- (5) 69 ページの図にあるようなものの数を計算するには、

$$\left(\text{一番下の段の数} + \text{一番上の段の数} \right) \times \text{段の数} \div 2$$

と計算すれば、早くもとめられること。

練習

(1) みつお君が、畑のさといもを掘りました。一つのうねから1貫600匁、もう一つのうねから1貫800匁とれました。

みつお君は、合わせてどれだけとれたかを、つぎのように計算しました。

(式) 1貫600匁+1貫800匁=3貫400匁

(計算)

貫	匁	
1	600	
1	800	
3		400

答 3貫400匁

上のような書き方で、つぎの計算をなさい。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1貫400匁+2貫700匁 | 8貫-4貫300匁 |
| 3貫600匁+4貫800匁 | 6貫200匁-5貫900匁 |
| 15貫+7貫500匁 | 24貫500匁-7貫800匁 |
| 2貫400匁×3 | 3貫800匁÷2 |
| 5貫700匁×5 | 8貫400匁÷14 |

上の答をたしかめましょう。

(2) つぎの の中にあてはまる数を入れなさい。

㉑ 1貫=匁 ㉒ 1貫= $\frac{\square}{\square}$ kg=kg

㉓ 1匁= $\frac{\square}{\square}$ g=g ㉔ 1t=kg

(3) 下の表は、昭和21年のさつまいものとれ高の

全	国	14,7057,5693貫
1	茨城	1,2923,1100 "
2	鹿児島	1,1886,6899 "
3	千葉	1,0921,4736 "
4	愛知	8276,3019 "
5	埼玉	8163,8000 "
6	熊本	8120,6779 "
7	長崎	6716,1382 "
8	静岡	6630,1744 "
9	群馬	5344,0930 "
10	宮崎	5238,1540 "

全国の合計と、とれ高の多かった県をしらべたものです。

第1位から第10位までの県のさつまいもの合計は、どれだけになるでしょう。

その他の県では、どれだけとれたのでしょうか。

(4) つぎの重さを、分数を使って、かっこの中の単位になおしなさい。

- | | | | |
|---------|----------|----------|---------|
| 800匁(貫) | 2.35貫(匁) | 1200匁(貫) | 5貫(匁) |
| 60g(匁) | 105kg(貫) | 2.5t(kg) | 17t(kg) |

(4) かず子さんの町の駅に、今年の10月中にとどいた木炭とたどんは、合わせて268tでした。今年の10月には155tだったそうです。この二つをくらべなさい。また、平均1日には、それぞれ、どれだけのわりになりますか。

(5) 下の表は、日本全国の昭和16年、17年、18年の木炭の生産高を、種類別に表わしたものです。

種 類 \ 年	昭和16年	昭和17年	昭和18年
白 炭	65,7778		54,7143
黒 炭		142,7313	115,4116
松 炭	31,9175	10,8161	7,4013
等 外 炭	12,2967	11,5501	10,3066
ガ ス 炭	14,2417	26,0695	27,1199
合 計	269,4098	259,8691	

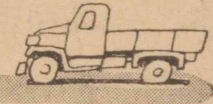
(農林省統計表)

あいているところに、そろばんで計算して入れなさい。

(6) 雪子さんの体重は33.4kg、花子さんの体重は8貫800匁だそうです。どちらがどれだけ重いですか。



テスト (13)



(1) つぎの重さを、分数を使って、gやkgになおしなさい。

- 9匁 16匁 100匁 450匁 700匁
7貫 24貫 85貫 120貫 150貫

(2) つぎの重さを、分数を使って、匁や貫になおしなさい。

- 8g 30g 75g 270g 900g
3kg 10kg 45kg 60kg 150kg

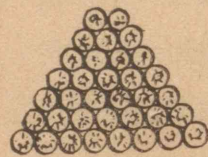
(3) つぎの各組の重さは、どちらが重いですか。

- (5匁, 20g) (30匁, 110g) (200匁, 800g)
(3貫, 9kg) (15貫, 60kg) (120貫, 400kg)
(800貫, 3t) (1000貫, 4t) (5000貫, 17t)

(4) つぎの計算をなさい。

- 2貫400匁+3貫600匁 10貫-6貫700匁
5貫700匁+1貫800匁 8貫100匁-300匁
3貫50匁+6貫480匁 65貫-4貫70匁
2貫600匁×2 3貫600匁÷15
8貫500匁×5 43貫200匁÷24

(5) ふみ子さんの家では、たて 25 m 、横 20 m の長方形の畑から、さつまいもが約 180 貫とれました。1 畝について、何貫とれたことになるでしょう。また 1 a について何 kg とれたことになるでしょう。



(6) 左のように積んだ米俵の山があります。俵の数は、どれだけでしょう。早くできるしかたを式に書いて計算なさい。

(7) 石炭専用の貨車には、右のよう
な 3 種があります。

セ	10 t
セム	15 t
セキ	30 t

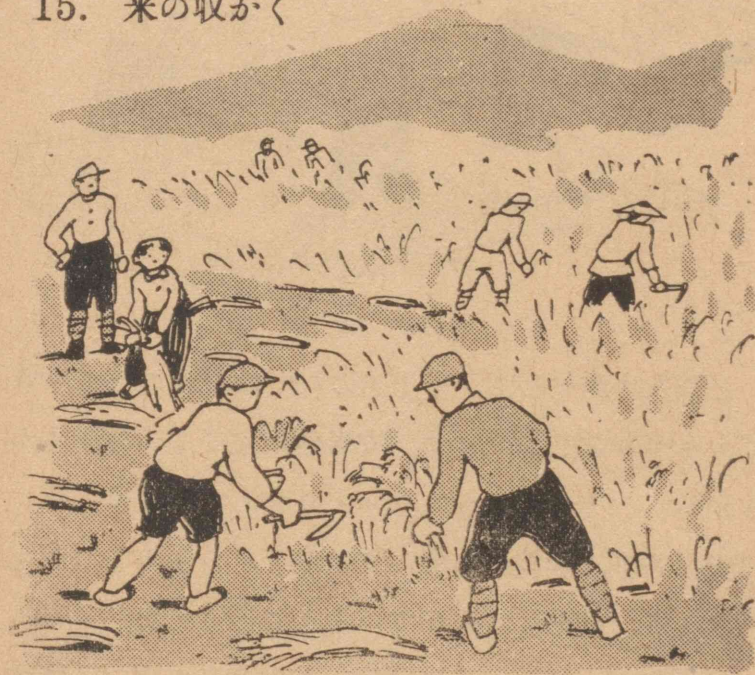
500 t の石炭をはこぶには、セとセキの貨車を 6 台ずつ使って、残りはセムを使うことにします。セムの貨車は何台いらいますか。

(8) 体重をはかったら、おとうさんは 15 貫 300 匁、正男君は 8 貫 700 匁、妹は 6 貫 900 匁でした。

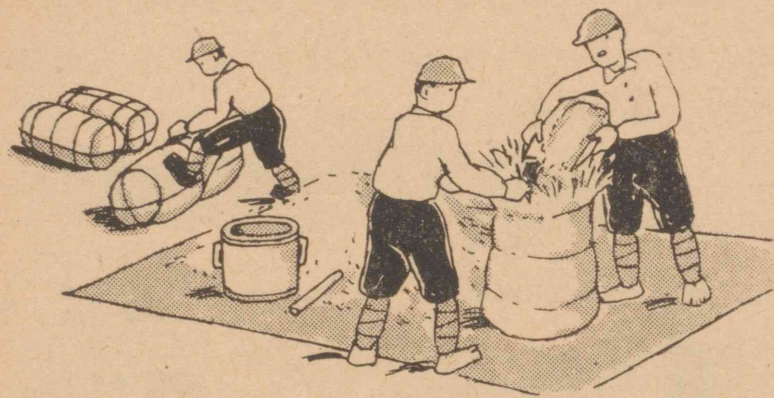
㉑ おとうさんは、正男君よりどれだけ重いでしょう。

㉒ 正男君は、妹よりどれだけ重いでしょう。

15. 米の収かく



この单元では、米の収かく高をくらべたり、ますの種類をしらべたりしながら、石・斗・升・合・勺および、それらと l の関係や、 kl について学習しましょう。



とり入れがすんで、安男君の村では、あちらこちらでもみすりをしています。安男君の家でも、朝早くから家中でいそがしそらにもみすりをしています。

安男君が、学校から帰ってみると、ちょうど、おとうさんが、米を俵に入れていたところでした。

安男「おとうさん、俵にはどれだけの米がはいりますか。」

父「このますで4はいだよ。」

安男君は、そのますを見ると、「一斗」と書いてあります。

安男「では、米俵は4斗入りだということになりますね。」

その時、もう6俵の米俵ができていました。安男君は、どれだけになるかを、計算してみました。

1俵では、———4斗

6俵では、———4斗×6=24斗

に、24斗になります。

安男「6俵では、24斗になりますね。」

父「いや、24斗とはいわない。」

10斗=1石

だから、2石4斗というのだ。」

安男君は、石・斗の関係がよくわかりました。

(1) 4斗入りの米俵があります。つぎの俵数では、それぞれ、何石何斗ですか。

2俵 5俵 8俵 17俵 24俵

(2) つぎの米を4斗入りの俵につめると、それぞれ、何俵になりますか。

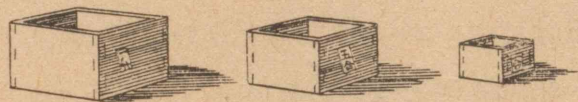
1石2斗 2石8斗 5石 7石6斗
12石 15石2斗 20石8斗 100石

ますの種類

俵の山ができて、楽しい夕飯がすみました。安男君

は、俵につめた残りの米をしらべてみようと思いましたが。

おかあさんにお話すると、おかあさんは、下のようなますを出してくださいました。



それぞれ、「一升」「五合」「一合」と書いてあります。お使いにいくとき、「しょう油1升」「酒5合」「す1合」などといっていたことを思い出しました。

安男君は、1斗ますは、1升ますで何ばいだろうとはかってみると、ちょうど10ばいでした。

また、1升ますを、1合ますではかると、これもちょうど、10ばいでした。

安男君は、つぎのような関係がわかりました。

1石=10斗

1斗=10升

1升=10合

安男君は、このことを、おかあさんに話しますと、「よくしらべましたね。それでよいのです。」といわれました。

安男君は、いろいろのますを使って、残りの米を、はかってみました。

1斗ます……2ばい、1升ます……3ばい、1合ます……1ばいでした。これで2斗3升1合であることがわかりました。

石・斗・升と *l, kl*

安男君は、石・斗・升と *l* とは、どんな関係があるか知りたいと思って、先生にたずねました。

先生は、

1升=約1.8*l*

と教えてくださいました。

そこで、1斗、1石についても、*l* との関係がすぐにわかりました。

1斗=約18*l*

1石=約180*l*

安男君はつづけて、

$$10 \text{ 石} = \text{約} 1800 \text{ l}$$

と出したとき、先生が

$$1 \text{ kl} = 1000 \text{ l}$$

だと教えてくださいました。安男君は

$$10 \text{ 石} = \text{約} 1.8 \text{ l}$$

となることがわかりました。

つぎの量を、かっこの中の単位で表わしなさい。

- (1) 2.3石(斗) $5\frac{1}{4}$ 升(合) 10.4斗(升) 6石5升(升)
- (2) 55合(升) 436合(斗) $237\frac{1}{5}$ 升(石,斗,升,合)
- (3) 4斗(l) 8升(l) 5石(l) 1.25斗(l)
- (4) 26石(kl) 53石(kl) 80石5斗(kl) 100石(kl)

日本の米

安男君は、日本では毎年どれだけの米がとれるか、しらべてみようと思いました。おとうさんに話すと、

「では、これを見てごらん。」

といって、統計表を出してくださいました。安男君は、

さっそく、ノートに書きとりました。

年別米実収高		
年	作付面積	実収高
昭和 16 年	318,2020町	5508,8171石
" 17 "	316,4126	6677,5832
" 18 "	311,0232	6288,7045
" 19 "	297,9368	5855,8848
" 20 "	289,2660	3914,9381
" 21 "	280,4009	6138,6011
" 22 "	290,7626	5865,2230
" 23 "	385,5882	6234,7675

安男「作付面積というのは、何のことですか。」

父「稲を作った面積をいうのだ。実収高は、実際の、米のとれ高のことだ。」

安男「ずいぶん、たくさんの米がとれるんですね。」

父「昭和23年の実収高を読んでごらん。」

安男君は、前に習ったように、4けたごとに「,」をつけて、

6234,7675 石

とし、六千二百三十四万七千六百七十五石と読みました。

安男君は、作付面積や実収高を、昭和16年の分から読んでみました。

私たちも、読んでみましょう。

実収高のくらべかた

安男君は、昭和16年から昭和23年までの6年間にいちばん多くとれたのは何年か、いちばん少なかったのは何年かをしらべてみようと思いました。

私たちも、しらべてみましょう。

安男君は、実収高だけを見ると、昭和17年、昭和18年、昭和23年の順であることがわかりました。つぎに作付面積を見ると、昭和17年と昭和18年とでは、あまりちがっていないけれども、昭和23年では、作付面積がずっと少なくなっています。

そこで、安男君は、1町歩の田畑に平均何石とれたかを計算しようと思って、おとうさんにお話しすると、

「1町歩の実収高をだして、くらべてもよいが、ふつう、1段歩の実収高をだすのがきまりになっているから、安男も、そうするがよい。」

といわれました。

安男君は、さっそく計算にとりかかりました。

1段当り実収高

まず、昭和17年の分です。

$$3164126 \text{ 町} = 31641260 \text{ 段}$$

$$66775832 \text{ 石} \div 31641260$$

この計算では、わられる数もわる数も大きな数ですから、だいたいの見当をつけるために、はじめに、つぎのようにしました。

$$66775832 \div 31641260$$

$$70000000 \div 30000000$$

$$7 \div 3 = 2$$

この数の概数をとると、7千万と、3千万です。わる数もわられる数も千万で、同じ位の数ですから、わった答は、1の位の数で2になることがわかりました。

約2石になることがわかりました。そして、はじめのわり算をしました。

右の計算で、昭和17年の1段当り実収高は、約2.110石となりました。

$$\begin{array}{r}
 2.1104 \\
 31641260 \overline{) 66775832} \\
 \underline{63282520} \\
 34933120 \\
 \underline{31641260} \\
 32918600 \\
 \underline{31641260} \\
 127734000 \\
 \underline{126565080} \\
 1168960
 \end{array}$$

こんどは、昭和23年の1段当り実収高を計算することになりました。

この計算で、昭和23年の1段当り実収高は、約2.182石となりました。そして、

昭和17年—
約2.110石
昭和23年—
約2.183石

$$\begin{array}{r}
 2.1831 \\
 28552820 \overline{) 62347675} \\
 \underline{57117640} \\
 52300350 \\
 \underline{28558820} \\
 237415300 \\
 \underline{238470560} \\
 89447400 \\
 \underline{85676460} \\
 37709400 \\
 \underline{28558820} \\
 9150580
 \end{array}$$

で、昭和23年の方が、昭和17年の分よりも、米のできがよかったことが、わかりました。

安男君は、これをおとうさんに見せると、

「よくできている。だが、昭和23年の1段当り実収高が最高だと考えることは、早すぎるよ。」

といわれました。

安男君は、表を見ていましたが、

「そうだ。昭和21年の分をしらべてみよう。」

というと、おうさんも、

「さあ、昭和23年と昭和21年の1段当り実収高はどちらが多いのかな。」

といわれました。

昭和21年の分を右のように計算して約2.189石となつて、昭和21年の分が、23年よりよいできであったことがはっきりしました。

$$\begin{array}{r}
 2.1892 \\
 28040090 \overline{) 6138011} \\
 \underline{56080180} \\
 53058310 \\
 \underline{28040090} \\
 250182200 \\
 \underline{224320720} \\
 258614800 \\
 \underline{252360810} \\
 62539900 \\
 \underline{56080180} \\
 6459720
 \end{array}$$

安男君は、ほかの年の米についても、1段当りの実収高の計算をして昭和21年がいちばんであることがわかりました。

私たちも、計算して、米のできのよい順をしらべましょう。

ま と め

この单元では、つぎのことを学習しました。

(1) 米、しょう油などをはかるには、つぎのような種類のますを使う。

1斗、1升、5合、1合 など。

(2) 石、斗、升、合には、つぎのような関係がある。

1石=10斗

1斗=10升

1升=10合

(3) 1升=約1.8l

(4) 1kl=1000l

(5) 作付面積がちがうときには、同じ広さのところにとれた収かく高を求めて、くらべなければならぬ。ふつうは、1段歩実収高でくらべる。

練 習

(1) つぎの米を、4斗入りの俵につめると、それぞれ何俵になるでしょう。

2石、3石2斗、18石、50石4斗、300石

(2) つぎの量を、()の中の単位であらわしなさい。

4.3斗(升)、5.7石(斗)、 $8\frac{1}{5}$ 升(合)、156升(合)

2475合(石、斗、升、合)、3升(l)、4.65石(l)

75石(kl)、160石5斗(kl)、2400石(kl)

(3) つぎの計算をなさい。

3升2合+2升8合 5斗3升+1斗9升

2斗5升3合+1斗6升 8石7斗+6斗5合

4斗-2斗4升6合 10石4升-2石7斗6合

34石4斗-28石5斗 100石-56石9斗8升

2.7合×3 1.26石×5

8斗2升6合×4 7石3升8合×8

1石4斗4升÷3 4石3斗4升÷7

6升5合×3÷5 2.8斗÷8×6

5斗4升8合×7÷2 10石6升×5÷4

(4) のぶお君の家で、ことし米が23石7斗5升とれ

ました。これは、4斗俵何俵と何斗何升でしょう。

(5) たて7間、横15間の長方形の田から、米が9斗4升5合とれました。この田から1坪平均どれだけの米がとれたことになるでしょう。

(6) 広君たちは、修学旅行に行くことになりました。食糧として1人が6合ずつの米を持っていくことになっています。これは、5食分として計算されたものです。1食は、どれだけのわりあいになりますか。

宿屋で米をわたすのですが、かかりの広君は97人分ていくらの米があればよいかを計算しています。集めた米の量は、いくらあればよいでしょう。

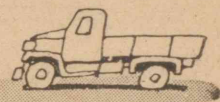
(7) わが国の年別小麦の実収高は、つぎのとおりです。段当り実収高は、それぞれどれだけでしょう。

	作付面積	実収高
昭和17年	86,3109.3町	1011,4535石
“ 18 “	80,9871.9	799,0485
“ 19 “	83,7468.3	1011,1202
“ 20 “	72,9680.0	689,1661
“ 21 “	63,7395.0	449,6303

(農林省統計表)



テスト (14)



(1) つぎの量をかっこの中の単位で表わしなさい。

1升2合(合), 3斗8升(升), 2斗5合(升)

4石3斗(石), 60升(斗), $350\frac{1}{2}$ 升(石, 斗, 升, 合)

10石4升(升), 4斗(升), 2.8石(斗), 248合(升)

(2) つぎの量を、 l や kl で表わしなさい。

2升(l), 8升5合(l), 6斗3升(l)

5.5升(l), 7石(l), 3.25斗(l)

5石6升(l), 25石(kl), 120石(kl)

1000石(kl)

(3) つぎの計算をなさい。

2斗5升+3斗2升 6升5合+8升7合

4升5合+6斗9升7合 2石7升+4石5斗5升

1斗6合-8合 3升1合-1升4合

7斗3升-2斗4升5合 4石5升-2石3斗8升

3斗6升×4 6斗2升3合×5

4石8斗4升×3 5石9斗2升8合×7

2斗7升÷3 8斗5合÷5

5石5斗2升÷12 11石4斗÷30

(4) 安男君の家では、きょう4俵の米をつきました。
1俵の米をはかってみたら、約3斗8升ありました。
4俵ではどれだけでしょう。

(5) よしお君の家で、ことし米を82石5斗6升とりました。作付面積は2町5段7畝でした。1畝当りのとれ高は、どれだけでしょう。また、1段当りのとれ高は、約何俵といえよいでしょう。

(6) 米俵の1俵が4斗であるとすれば

㉑ 1段当り6俵とれると、2町4段歩の田から何俵の米がとれるでしょう。

㉒ その米は、何石何斗でしょう。また、何してしょう。

(7) 学校に、給食用として油が24l配給になりました。ねだんは、1lについて165円のわりあいです。いくら金をはらえばよいでしょう。

(8) わが国の昭和21年の小麦の

作付面積は——63,7395町歩

実収高は——449,6303石

でした。小麦の1段当り実収高は、どれだけでしょう。

(I)

(1) 広君はつぎのように、分数のかけ算をしました。

$$\frac{5}{16} \times 24 = \frac{5 \times 24}{16} = \frac{2}{15} = 7\frac{1}{2} \quad \text{答 } 7\frac{1}{2}$$

私たちも、このようなしかたで、つぎの問題をしましょう。

$$\frac{2}{3} \times 12 \quad \frac{3}{4} \times 16 \quad \frac{6}{15} \times 6 \quad \frac{7}{12} \times 30 \quad \frac{13}{19} \times 52$$

$$2\frac{4}{11} \times 33 \quad 5\frac{9}{20} \times 15 \quad 4\frac{3}{3} \times 40 \quad 2\frac{5}{6} \times 8 \quad 1\frac{11}{24} \times 16$$

(2) また、広君は、つぎのように、分数のわり算をしました。

このようなしかたで、

$$\frac{9}{16} \div 6 = \frac{9}{14 \times \frac{6}{2}} = \frac{3}{28} \quad \text{答 } \frac{3}{28}$$

つぎの問題をしましょう。

$$\frac{4}{5} \div 2 \quad \frac{10}{13} \div 15 \quad \frac{8}{9} \div 36 \quad \frac{12}{25} \div 20 \quad \frac{25}{32} \div 5$$

$$3\frac{1}{3} \div 5 \quad 5\frac{5}{7} \div 10 \quad 2\frac{7}{12} \div 31 \quad 1\frac{5}{17} \div 2 \quad 4\frac{2}{9} \div 19$$

(3) 体重をはかったら、道男君が7貫730匁、妹が5貫460匁、おとうさんが15貫600匁ありました。3人の体重をくらべなさい。また、それぞれの体重を、kg単位になおしてごらんください。

(4) 石油かんの寸法をはかったら、たて24cm、横24cm、高さ35cmでした。

㉑ 石油かんの底の面積は、どれだけでしょう。

㉒ 石油かんの横の面積は、どれだけでしょう。

㉓ 石油かんの全表面積は、どれだけでしょう。

㉔ この石油かんは、ふつう5ガロンかんといわれています。1ガロンを3.8lとして計算すると、何lにあたるでしょう。

㉕ この石油かんには、米が約1斗はいるといわれています。実際に、1斗はいるのでしょうか。

(5) きみ子さんの家では、ことし107俵の米がとれました。これは、何石何斗でしょう。また、約何klでしょう。

(6) 安男君は、おとうさんと麦の手入れにいきました。1日に安男君は全体の $\frac{1}{15}$ 、おとうさんは $\frac{1}{10}$ をなさいます。このわりで5日間には、どれだけできますか。

〔II〕

しゆ算の練習 (一)

98 ページの問題を、見取算で練習しましょう。

見取算とは、問題を見ながら、そろばんで計算するしかたです。

25	左のように、2けた5口で、10題ずつ4段にならんでいますね。これを10分間に何題できるかしましょう。 するじゆんじよを、つぎのようになさい。
72	
10	
79	
38	

(1) 第1段 → 第2段 → 第3段 → 第4段

(2) 第2段 → 第3段 → 第4段 → 第1段

(3) 第3段 → 第4段 → 第1段 → 第2段

(4) 第4段 → 第1段 → 第2段 → 第3段

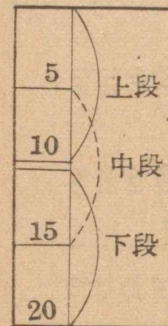
5	第1段	第1回目には(1)、第2回目には(2)、というように、いつもするじゆんじよを変えてみましょう。答は、後の表を見て比べ、計算した数と、正しい答の数を、下のらんに書き入れましょう。正しい答の数が、15以上になるようにしましょう。
10	第2段	
15	第3段	
20	第4段	

計算した数							
正しい答の数							

10	35 81 56 24 69	75 42 95 62 26	92 67 34 17 95	27 86 69 82 89
9	62 35 58 97 46	31 79 50 83 18	12 95 61 32 41	95 87 26 67 15
8	53 26 78 84 97	43 26 47 75 18	38 26 19 27 64	81 95 27 50 62
7	85 68 74 57 72	96 48 31 74 50	56 60 28 90 56	67 30 81 20 54
6	56 67 33 88 94	79 86 30 16 49	19 32 80 61 27	80 56 15 27 50
5	39 85 73 69 45	37 84 29 80 46	72 95 81 67 30	28 71 63 56 49
4	49 78 95 64 89	53 64 41 50 67	39 20 81 62 96	68 72 28 90 61
3	14 46 27 13 84	21 95 43 51 67	36 19 50 82 24	49 57 70 81 92
2	65 87 24 28 43	56 64 18 72 57	24 13 26 43 92	49 23 78 62 36
1	73 26 84 45 59	98 92 27 65 34	78 97 16 78 54	87 43 80 55 92
	5	10	15	20

しゅざんの練習 (二)

100 ページの問題を、2けた10口で練習しましょう。



読みあげ算

1人が読みあげて、ほかの人たちが練習するしかたを、読みあげ算といいます。かわりあって、読みあげましょう。

答のちがった問題については、何回も練習しましょう。

見取算

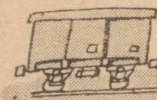
計算をするじゅんじょをつぎのようになさい。

- (1) 上段 中段 下段
- (2) 中段 下段 上段
- (3) 下段 上段 中段

10分間に何題できるか、しらべましょう。そして、下のらんに書き入れましょう。正しい答の数が、10以上になるようにしましょう。

計算した数							
正しい答の数							

10	62 36 67 49 95	24 82 61 79 15	62 50 14 46 63	53 41 62 17 75
9	63 82 57 15 48	39 96 24 71 33	70 36 54 29 83	47 86 50 68 13
8	67 98 74 51 37	25 46 72 69 81	79 52 91 20 47	51 18 50 46 83
7	89 96 57 12 98	24 65 81 73 68	48 73 50 26 98	20 86 65 92 38
6	24 17 88 24 15	16 47 39 92 53	14 57 30 71 60	28 94 39 62 15
5	53 78 45 90 68	14 27 92 81 75	65 14 30 26 71	80 34 68 96 58
4	95 16 67 80 89	30 61 22 58 84	15 50 28 45 87	19 60 37 56 87
3	26 68 37 92 25	50 92 67 30 41	75 26 70 34 76	80 32 78 92 56
2	94 11 67 82 95	68 10 23 94 72	69 57 48 72 45	14 91 39 73 66
1	37 72 16 87 18	20 71 89 90 24	35 94 23 47 51	78 17 26 52 81
	5	10	15	20



しあげテスト (7)



(1) つぎの計算をなさい。

$$\begin{array}{r}
 684 \\
 237 \\
 +815 \\
 \hline
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{r}
 367 \\
 735 \\
 +449 \\
 \hline
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{r}
 48.5 \\
 63.6 \\
 +34.7 \\
 \hline
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{r}
 26.49 \\
 33.58 \\
 +74.15 \\
 \hline
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{r}
 73.19 \\
 46.24 \\
 +96.86 \\
 \hline
 \end{array}$$

$$\begin{array}{r}
 873 \\
 -325 \\
 \hline
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{r}
 703 \\
 -437 \\
 \hline
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{r}
 34.2 \\
 -28.6 \\
 \hline
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{r}
 83.42 \\
 -48.59 \\
 \hline
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{r}
 91.02 \\
 -59.83 \\
 \hline
 \end{array}$$

$$\begin{array}{r}
 193 \\
 \times 286 \\
 \hline
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{r}
 274 \\
 \times 357 \\
 \hline
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{r}
 37.5 \\
 \times 542 \\
 \hline
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{r}
 72.36 \\
 \times 358 \\
 \hline
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{r}
 83.94 \\
 \times 967 \\
 \hline
 \end{array}$$

$$\begin{array}{r}
 506 \overline{)19374} \\
 314 \overline{)90822} \\
 255 \overline{)140.25}
 \end{array}$$

(2) つぎの計算をなさい。

8段6畝+4段7畝18歩 2町4段-8段5畝22歩

7斗4升+4斗6升 1石2斗-7斗4升5合

3貫700匁+2貫800匁 5貫100匁-1貫600匁

2kl+1400l 3.5t-2400kg

6斗8升9合×9 2貫300匁×5

8貫400匁×6 4石3斗6升÷8

(3) つぎを、かんたんな比で答えなさい。

- ㉑ 30度と45度との角度の比
- ㉒ 800匁と1貫との重さの比
- ㉓ 2畝15歩と4畝5歩との面積の比
- ㉔ 4石8斗と2石7斗とのますめの比
- ㉕ 1.8klと1.5klとのますめの比

(4) 2t積みの貨物自動車に、1俵45kgのいも俵を30俵積みました。あと何俵積めるでしょう。

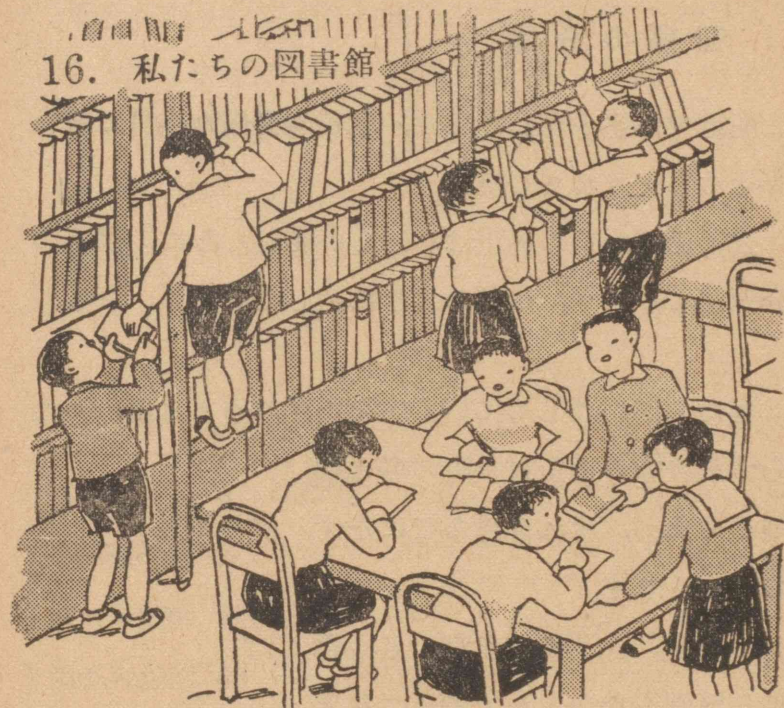
(5) 広君の家の先月の主食の配給は、 $\frac{3}{5}$ が米で、 $\frac{1}{6}$ が小麦粉で、残りはさつまいもでした。さつまいものわりあいは、どれだけでしょう。

(6) すみ子さんの家では、ことし、段当り5俵半のわりあいで米がとれました。田の面積はみんなで2町4段だそうです。米は何石何斗とれたのでしょうか。

(7) つぎの容積の入れものは、それぞれ何リットルといえよでしょう。

- | | |
|-----------|-----------|
| 2升入りのやかん | 8升入りのバケツ |
| 3合入りのひしゃく | 4斗たる |
| 5合ます | 1石2斗入りのおけ |

16. 私たちの図書館



この单元では、図書館について、図書の十進分類のしかたや、本の大きさを調べ、本の買い入れにあたって、そのかんじょうがきや、領収書について学習しましょう。

図書の分類

進君やかず子さんたちは、学校図書館の委員に新しくせんきよされました。

図書館がかりの先生は、新しい委員たちに、図書の分類法について、つぎのように話してくださいました。

私たちが、はじめていく家をたずねるときは、かならずその家のある村や町の名と番地とを調べ、それを目あてにたずねていきます。

しかし、かりに村や町の名も番地の区別もなかったと考えてみましょう。どうして人に聞きますか。たずねようがなくなるでしょう。

これと同じように、たくさんの本を、ただ集めただけでは、自分の必要な本をさがし出すのに、1さつ1さつ見ていかねばなりません。そんな不便をしないために、分類が必要なのです。

0	学問一ばん
1	てつ学
2	歴史・地理
3	社会・公民
4	理科
5	工業・工学
6	産業
7	美術・芸術
8	国語
9	文学

私たちの学校図書館の本は、まず前のページのように、0から9まで、大きく10に分類し、その一つ一つをまた10に区分し、2けたの数で表わします。たとえば、2の歴史・地理、4

の理科などは右のように10ずつに分けられています。

何万さつという多くの本をもっている図書館では、なお、この一つ一つを10に区分し、

20	歴史一ばん	40	理科一ばん
21	日本史	41	数 学
22	東洋史	42	物 理
23	西洋史	43	化 学
24	皇 室	44	天 文
25	紋 <small>もん</small>	45	地 学
26	伝 記	46	博 物
27	地理・旅行記	47	植 物
28	日本地理	48	動 物
29	外国地理	49	医 学

2けたの数で表わしているのです。このような分類法を十進分類法といいます。

この分類のしかたは、数の一万を10に分けて一千とし、一千を10に分けて百とし、百を10に分けて十とし、十を10に分けて一とするのと似ています。

数にも時間のように、60秒が1分、60分が1時間、24時間が1日と、十進でないものがあるように、図書の分類法にも、A, B, C……で分類するしかた、アイウ

エオ、カキ……と分類するしかたなどもありますが、だんだん便利な十進分類法にかえられています。

あなたたちが、書庫から必要な本を出したり、新しく買った本を書庫へおさめるのにも、この分類法をしっかり知らねばなりません。

(1) 進君たちは、新しく学校図書館に買い入れた、野口英世伝と渡り鳥（理科の本）の2さつをそれぞれの分類に入れるでしょう。

(2) 十進数にはどんなのがありますか。知っているだけあげて見ましょう。十進数でない数も知っているだけあげてみましょう。

本の大きさ

図書についての話し合いのときに、進君が図書の分類法の話をする、広君が

「本の大きさには、どんなきまりがありますか。」とたずねました。

これについては、だれも知っている人がありません。さっそく、みんなで調べることにしました。

まず本を見わたして、だいたい3種になることがわかったので、つぎのように分かれて調査をはじめました。

小の部 第一班^{はん}（広君たち）
中の部 第二班^{はん}（進君たち）
大の部 第三班（和子さんたち）

	横 (mm)	たて (mm)
1	127	185
2	125	183
3	128	185
4	124	175
5	129	184
6	128	182
7	127	189
8	129	184
9	126	183
10	127	181
平均	127	183.5

B6判

広君たちは、左のように10さつの本について、横とたての長さをはかって、平均を出しました。ここで、先生が、つぎのように教えてくださいました。

「第一班で調べた本の大きさは、B判です。

横——128 mm

たて——182 mm

が、その標準^{ひょうじゆん}となっています。」

A5判

	横 (mm)	たて (mm)
1	149	208
2	148	209
3	150	208
4	148	210
5	147	211
6	146	210
7	148	209
8	147	207
9	149	212
10	146	210
平均	147.8	209.4

進君たちは、中の部の10
さつの本について、調べる
と、左のように

横——148.7 mm

たて——209.4 mm

という平均がでました。

先生は、

「これは、A5判です。で
は、その大きさの標準を教
えてあげましょう。」

とって、A5判は、

横——148 mm

たて——210 mm

だと、書いてくださいました。すると、進君が、

「ふつうのざっしや教科書は、A5判ですね。」

といました。

B5判

かず子さんたちの調べる大の部の本は、数が少ない

ので、先生方の図書も借り
て、ようやく10さつ集め
ました。先生に平均を見せ
ると、

「これは、B5判です。

横——182 mm

たて——257 mm

が、その標準になっていま
す。」といわれました。

判型一覧表

進君たちは、B6判、A
5判、B5判がわかったの

	横 (mm)	たて (mm)
1	182	256
2	185	258
3	180	261
4	183	258
5	182	257
6	181	255
7	184	258
8	182	256
9	181	256
10	183	257
平均	182.3	127.2

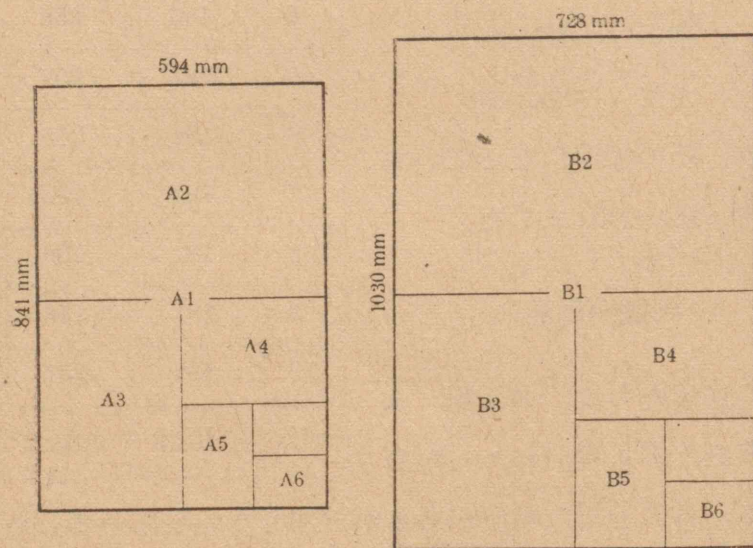
で、外にどんな判型があるかを知りたいと思いました。

正男 「B5、B6があるのだから、A5の外にA6が
あるかも知れない。」

広 「A6判があるとしたら、A5判よりも小さな
本だろうね。」

かず子 「私の家にある小さな本が、A6判かも知れな
いわ。」

この時、先生は、大きな紙2まいを持ってきて、まず小さい方のA型について、図のように、つぎつぎと二つ折りにしてA1, A2と説明してくださいました。つぎに大きい方のB型についても同じように、B1, B2と説明してくださいました。



これで、A1, A2, A3.....

B1, B2, B3.....

の判型があることや、紙の大きさを、だんだん小さくたっていくしかたが、わかりました。

私たちも、いろいろな本について、どの大きさにあ

たるかを調べてみましょう。

- (1) A1の紙で、A5判の紙が何まいとれますか。
- (2) A5判48まいとじのノート50さつを作るには、A1の紙が何まいいりますか。
- (3) この本の判型は、何でしょう。

かんじょうがき、領収書

1月15日に
本屋さんが、
9さつの本を
持ってきました。
本屋さんは、本といっ
しよに、右の
ような紙を出
して、

「これが、計
算書です。」
といいました。

計算書				
図書館係様				
昭和26年 / 月 / 日				
合計金額 2170円 水谷商店				
月日	品名	数量	単価	金額
1.15	世界のなや	1	210.00	210.00
	風の又三郎	1	200.00	200.00
	たのしい算数	2	180.00	360.00
	小学辞典	5	280.00	1400.00
			合計金額	2170.00

上記の通り相違ありません

進君たちは、本といっしょに計算書を、先生に見せると、先生は、「計算書と、とどけられた本の数や金額が、まちがっていないかを、調べなさい。」

といわれました。進君たちは、調べてみるとまちがいはありませんでした。

進 「まちがいありません。」

先生 「それでは、会計がかりの先生にいて、はらってもらいなさい。計算書のことを、かんじょうがきともいいます。」

進君は、会計がかりの先生からお金をもらって、本屋さんにはらいました。

本屋さんは、

「たしかにいただきました。」

とってつぎのような領収書を出しました。これを先生にわたすと、先生は、

「これは、本屋さんが、たしかにお金を受け取ったというしょうこですから、だいにしまっておかねばなりません。あとで、もし本屋さんがまちがえて、また本代をせいきゅうしたときなどには、この領収書を見せれば、前にはらったことがわかります。」

図書館 様	係	水谷商店	昭和三十六年一月五日	世界のかなや 一 貳百拾円	風り又三郎 一 貳百円	左のし算数 二 参百六拾円	小学辞典五 千四百円	一、金貳千百七拾円也	取 印	領収書
									ただし	

といわれました。

先生は、また、

「これが、図書の領収書入れのふくろです。」

とって、本年度分のものを見せてくださいました。

進君たちは、領収書のたいせつなわけがわかりました。

ま と め

この单元では、つぎのことを学習しました。

- (1) 図書の分類法には、十進分類法というのがある。
- (2) 十進分類法は
- ④ 本の整理がよくなってきて、さがすのにも便利である。
- ⑤ 本の数が多くなれば、10 区分から 100 区分へ、100 区分から 1000 区分へと、こまかに分類される。
- (3) 本の大きさにはきまった判型があつて、ふつうの本は
- A4 判, A5 判, A6 判
B5 判, B6 判, B7 判
- などの判型である。
- (4) 買いもののかんじょうを書いたものを、かんじょうがきといい、たしかにその金をはらったしょうこになるものを、領収書という。

練 習

(1) つぎのよせ算をなさい。

円	円	円	円	円
1.24	3.82	4.56	12.82	3.84
.92	4.61	1.09	.92	.56
12.91	15.83	.72	.06	1.09
4.32	.72	12.40	3.84	.08
<u>5.16</u>	<u>1.09</u>	<u>.60</u>	<u>.78</u>	<u>12.24</u>

円	円	円	円	円
1.90	3.67	8.39	24.58	20.06
12.00	5.37	4.58	3.38	4.00
4.50	13.26	10.98	14.49	4.18
3.82	8.39	.38	4.29	6.48
<u>14.63</u>	<u>4.27</u>	<u>.39</u>	<u>3.47</u>	<u>18.62</u>

(2) つぎのひき算をなさい。

607	514	800	54.78	713.89
<u>329</u>	<u>86</u>	<u>228</u>	<u>39.84</u>	<u>464.28</u>

950	884	687	90.00	530.05
<u>685</u>	<u>369</u>	<u>459</u>	<u>4.08</u>	<u>390.98</u>

713	642	987	83.21	700.75
<u>598</u>	<u>247</u>	<u>596</u>	<u>59.38</u>	<u>426.57</u>

(3) つぎの の中に、適当なことばを書き入れなさい。

② 図書の分類は、 によって、

から へ、

100 区分から へ、

というように、分ける本が多くなれば、区分も多くします。

③ 本の大きさは、ふつう

A , A , A6 判

B , B , B

などの判型があります。

(4) 道子さんの学校の図書館には、本が 1381 冊あります。生徒 1 人当たり、何冊のわりあいになるでしょう。生徒は、みんな 559 人います。

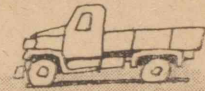
(5) つぎの表は、わが国の図書館についての統計です。それぞれの合計をもとめなさい。

(昭和 21 年調べ)		国立	都道府県立	市立	町立	村立	組合立	私立	合計
図書館の数		1	73	200	564	1669	38	854	
図書館にある本の数(万)		104	325	233	98	73	8	223	
昭和 21 年 1 年間に 読んだ	本の数(万)	41	265	467	189	123	8	153	
	人の数(万)	8	216	320	160	161	5	103	

(第一回日本統計年鑑による)



テスト (15)



(1) つぎのよせ算をなさい。

376	206	927	42	6.26
98	24	81	368	3.24
573	135	607	75	3.09
409	90	54	401	2.78
<u>37</u>	<u>246</u>	<u>796</u>	<u>327</u>	<u>.65</u>

<i>m</i>	<i>g</i>	<i>l</i>	円 銭	円
424	575	272	409	423
9	404	8	786	198
628	6	324	55	76
476	21	576	421	525
92	149	299	707	403
<u>380</u>	<u>338</u>	<u>878</u>	<u>868</u>	<u>2</u>

(2) つぎのひき算をなさい。

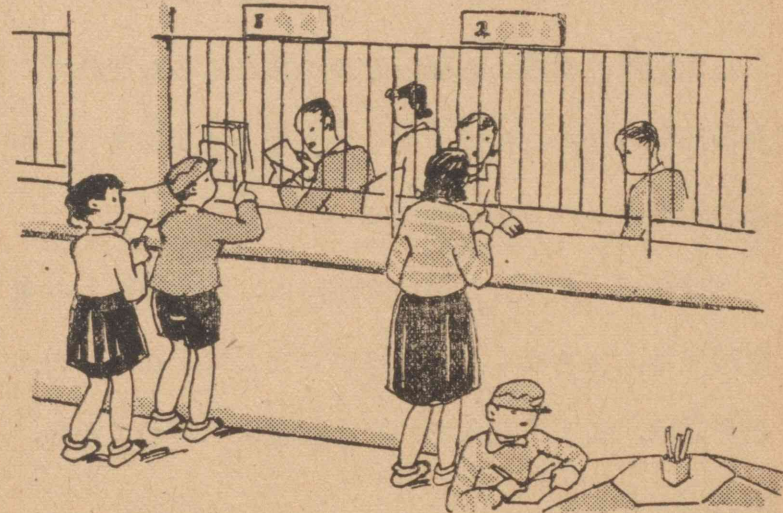
4286	3070	7221	92.11	72.14
<u>2981</u>	<u>1707</u>	<u>732</u>	<u>30.47</u>	<u>9.62</u>
<i>ha</i>	<i>kg</i>	<i>m</i>	円	円 銭
3892	4211	8134	6213	7802
<u>1096</u>	<u>2360</u>	<u>2649</u>	<u>4829</u>	<u>6913</u>

(3) かず子さんのおかあさんが、洋品店に買物にいかれました。かず子さんがおかあさんの買物を一つ一つひかえたら、つぎのとおりでした。みんなていくらでしたか。

品名	単価	数量	金額
くつ下(父)	133.80	2	
セーター(姉)	825.00	1	
シャツ(私)	473.70	1	
バンド(弟)	220.00	1	
たび(母)	117.00	1	
手ぬぐい	55.00	2	
合計			

(4) としお君の家に、店から計算書がとどきました。金高の合計は、1960円となっていました。おかあさんがそれを見られて、「430円の火鉢を買うはずだったのを、620円のかえました。それがもとのままになっています。」といわれました。店に、いくらほらえばよいでしょう。

17. 郵便貯金



この单元では、郵便貯金ゆうびんを預け入れるときの手つづきや通帳などの書類について学び、小使帳を整理しながら、収支計算について学びましょう。

おつかい

正男君は、学校から帰るとおかあさんのお使いで、郵便局へ貯金をしにいきました。貯金は3時までしかあつかわないので、いそいでいきました。

郵便局で、「預金」と書いた窓口に、貯金通帳とお金を出すと、まもなく、通帳だけわたしてくれました。正男君は、新しく記入された金額をたしかめてから、家に帰りました。

15	13	11	9	7	5	3	1	印 鑑
			26.1.16	25.11.5	25.9.5	25.7.2	25.5.5	
			壹千円也	壹千五百円也	八百円也	五百円也	壹千五百円也	受入高欄 記入高欄 払出高欄 残高欄
				貳千円也				
16	14	12	10	8	6	4	2	
				25.12.7	25.10.4	25.8.1	25.6.1	

正男君は、帰るとさっそくおかあさんに見せました。

貯金通帳調べ

正男君は、貯金通帳を借りて、いろいろ調べようとしましたが、わからないことがたくさんありますので、おかあさんに聞きました。

おかあさんは、受入高や^{はらいだしだか}払出高などについて、つぎのように、説明してくださいました。

受入高と払出高

受入高のところには、あずけ入れた金高が記入してある。

払出高のところには、貯金をひき出した金高が記入してある。

このことから、正男君はつぎのことがわかりました。

$$\text{受入高} - \text{払出高} = \text{貯金残高}$$

壱式参拾

正男君が、貯金高を見ようとしますと、数字の中に、

壺や式や参があつてわかりませんので、おかあさんにたずねると、

壺は一、壺は二、参は三、であることがわかりました。これは、一・二・三ではまちがえやすいので、とくに、壺、式、参 を書くとのことでした。

正男 「壺・式・参のほか、とくべつの子を使っているものがありますか。」

母 「十の字のかわりに、拾の字を書きます。」

正男君は、貯金通帳のことがよくわかりましたので、つぎのことを調べることにしました。

- ① はじめてお金を預けた日は、何日か。
- ② お金をあずけた日は、それぞれいつか。
- ③ お金をひき出した日は、それぞれいつか。
- ④ お金はどれだけ、たまっているか。

私たちが、正男君のように、調べましょう。

つぎの数を、壺・式・参・拾を使って、かん字で書きましょう。

2500, 32800, 1473, 6039, 3261

貯金高の計算

正男君は、120 ページの通帳で、貯金残高がどれだけになるかを計算してみようと思ひました。

はじめに、受入高はいくらになるかを、そろばんで計算しました。

$$\begin{array}{r} 1000 \text{ 円} + 1200 \text{ 円} + 1000 \text{ 円} + 1500 \text{ 円} + 1300 \text{ 円} \\ + 1000 \text{ 円} = 7000 \text{ 円} \dots\dots\dots \text{受入高合計} \end{array}$$

つぎに、払出高はいくらになるかを、計算しました。

$$500 \text{ 円} + 800 \text{ 円} + 2000 \text{ 円} = 3300 \text{ 円} \dots \text{払出高合計}$$

最後に、全受入高から払出高をひきました。

$$7000 \text{ 円} - 3300 \text{ 円} = 3700 \text{ 円} \dots\dots\dots \text{貯金残高}$$

上の計算を見ておられたおかあさんは、つぎのように一つの式にまとめる方法を教えてくださいました。

$$\begin{array}{r} (1000 \text{ 円} + 1200 \text{ 円} + 1000 \text{ 円} + 1500 \text{ 円} + 1300 \text{ 円} \\ + 1000 \text{ 円}) - (500 \text{ 円} + 800 \text{ 円} + 2000 \text{ 円}) \\ = 7000 \text{ 円} - 3300 \text{ 円} = 3700 \text{ 円} \end{array}$$

正男君は、前の

$$\text{受入高} - \text{払出高} = \text{貯金残高}$$

の式とくらべながら、これは考えかたを一つの式にまとめることができて、よい方法だと思いました。

(1) つぎの式を、かっこを使って、かんたんに行えるようにまとめて、計算なさい。

① $7 - 3 + 9 + 8 - 5 - 2 + 4$

② $62 - 18 + 78 - 39 + 55 - 26 - 47$

③ $2000 \text{ 円} - 250 \text{ 円} - 180 \text{ 円} - 425 \text{ 円} - 370 \text{ 円}$

(2) つぎの式を計算なさい。

$$(67 + 8 + 53) - (6 + 35 + 8 + 29)$$

$$10000 \text{ 円} - (15000 \text{ 円} + 3900 \text{ 円} + 1800 \text{ 円})$$

貯金預入^{もうしこみしょ}申込書

貯金通帳のことがわかった正男君は、おかあさんに、「どうすれば、通帳がもらえるのですか。」

とたずねると、

「新しく貯金をする時に、郵便局から預入申込書という用紙をもらうのです。その用紙に自分の住所氏名を

書いて、印かんをおして、10円以上の預金の申し込みをすると、通帳がもらえます。」といわれました。

正男君は、あくる日郵便局にいて、かかりの人に話すと、

「では、これをあげましょう。」

といって、貯金預入申込書をくださいました。

ハ用此 鮮ニ書 明ニ面 押スルハ シテモ他 下デア日 サイリ貯 マヌ金ノ スカ私 ラリ戻 明等ノ 瞭場 ニ合 記照 載合 シ印 印鑑ノ	印 附 日	鑑 印	番 記 通 号 号 帳	郵便貯金預入致度此段申込候也 貯金預入申込書 (貯第一号)
		名 氏	所 住	

正男君は、家に帰って、この申込書用紙に書き入れてみました。

私たちも、このような貯金預入申込書を作って、正男君のように書き入れてみましょう。

収支計算

正男 「お金を郵便局に預けると、どんな利益がありますか。」

母 「火事や地しんなどのときに、お金がなくなる心配がない上に、利子がつくのです。」

正男 「郵便局では、どのくらいのお金から預かりますか。」

母 「第一回目は10円以上ですが、第二回目からは、10銭以上ならば、どれだけでもよいのです。」

正男 「では、ほくもお小使いの中から、毎月貯金をしようかな。」

母 「それは、いいことです。ぜひ、郵便貯金をはじめなさい。」

正男君は、郵便局からもらってきた貯金預入申込書に記入して、自分で貯金をしにいこうと思いました。

正男君は、それをつぎのように1月の小使帳を整理しました。

月日	摘要	収入	支出	残高
1 1	前月分の残り	3650		
2	1月分(父より)	10000		
4	たこ		2500	
7	おじさん(お年玉)	10000		
"	おばさん(お年玉)	5000		
12	野球用ボール		9000	
22	少年の友		6500	
"	かし代		2000	
31	方眼紙		800	
	合計	28650	20800	7850

上の計算は、正しいでしょうか。

正男君が、これをおかあさんに見せると、

「これは、あなたの1月分の収支計算です。これからは、小使いを、できるだけ節約して、貯金するようになさい。」

といわれました。

正男君は、まず、70円を郵便局に貯金することにしました。

正男君の小使帳の1月分について、つぎのことを考えましょう。

(1) 12月から1月へのくりこし金は、いくらですか。

(2) 正男君が、1月にもらったお金の合計は、どれだけでしょう。

(3) 正男君は、1月分の使い方を反省して、支出を200円までにしておけばよかったと考えています。どんなものを、節約すればよかったですか。

(4) 1月から2月へのくりこし金は、いくらですか。

☆(5) 2月には、30円を貯金しようと思っています。毎月おとうさんからいただく小使いは100円です。2月の支出を、いくら以内にとどめたらよいでしょう。

ま と め

この單元では、つぎのことを学習しました。

(1) 新しく郵便貯金をするには、貯金預入申込書に住所と氏名を書いて、印かんをおして、10円以上の預入申込みをする。

(2) 貯金通帳について、

④ 受入高のところには、預け入れた金高を記入してある。

⑤ 払出高のところには、貯金をひき出した金高を記入してある。

⑥ $\text{受入高} - \text{払出高} = \text{貯金残高}$ である。

通帳を見て、上のように、一つの式にまとめて貯金残高を計算する。

(2) 貯金通帳では、一、二、三、十のかわりに、それぞれ、壱、弍、参、拾の数字を使う。

(3) 小使帳について、くりこし高をふくむ収支計算をする。

練習

(1) つぎの式は、ひく数をまとめて計算なさい。

$$100 - 15 - 38 - 4 \quad 300 - 46 - 157 - 32$$

$$1500\text{円} - 136\text{円} - 78\text{円} - 242\text{円} - 309\text{円} - 164\text{円}$$

(2) つぎの計算をなさい。

$$(328 + 246) - 198 \quad 1000 - (254 + 409)$$

$$(150\text{円} + 445\text{円} + 70\text{円} + 320\text{円}) - (50\text{円} + 295\text{円} + 100\text{円})$$

(3) 下の表は、久子さんの小使帳を、写したものです。あいているらんには書き入れなさい。

月日	摘要	収入 円	支出 円	残高 円
1 1	くりこし金	13240		
2	おとうさんから	20000		
5	おかあさんから	8000		
6	バス代		2000	
6	少女文集			
15	コンパス		1500	
24	子供新聞		3250	
30	お友だちへ おくりもの		3000	
	合計		21750	

(4) 広君は、毎月40円ずつ貯金することにしました。1年間には、どれだけのお金になるでしょう。2年間では、どうですか。

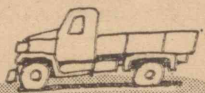
(5) 昭和23年8月1日の調査によると、わが国の人口は、約8022万人です。1人が1円ずつ貯金するとすれば、どれだけの額になるでしょう。また、1人5円ずつの貯金をすれば、どうなるでしょう。

(6) おじさんの貯金通帳で、受入高は1000円、500円、3500円、800円、2000円、1700円、払出高は、500円、1000円、900円、1500円です。貯金残高は、いくらでしょう。

☆(7) よしお君が貯金をするのに、1月は10円、2月は20円、3月は30円、4月は40円というように、毎月10円ずつ増していくとすれば、1年の終わりには、どれだけの貯金高になるでしょう。かんたんな計算のしたかを考えなさい。



テスト (16)



(1) つぎの計算を、よせる数とひく数を、それぞれべつべつにまとめて計算なさい。

$$22 - 8 + 4 - 5 + 9 - 6 \quad 35 + 4 - 16 - 8 + 12$$

$$43 + 61 - 18 - 57 + 24 - 9 + 37$$

$$250 + 620 - 280 - 170 + 310 - 560$$

$$1000\text{円} - 2000\text{円} + 1500\text{円} + 800\text{円} - 1200\text{円} - 400\text{円}$$

(2) つぎの計算をなさい。

$$(6 + 8) - (2 + 9) \quad 15 + (34 - 18) - 6$$

$$(43 - 18) + (14 - 7) \quad 100 - (82 - 65) + 19$$

$$(275\text{円} + 688\text{円} + 506\text{円}) - (900\text{円} - 768\text{円} + 841\text{円})$$

(3) 道夫君は、1月のおわりに、こづかいの残高を調べてみたら、141円15銭ありました。道夫君は1月に、おとうさんから150円、おばあさんから100円もらっています。使ったお金の合計は、135円80銭です。これで、収入と支出はあっているでしょうか。

あとで、道夫君は、前月からのくりこし金をわすれていることに気がつきました。前月からのくりこし金はいくらでしょう。

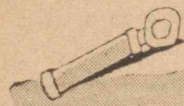
(4) 下の表は、安子さんの貯金通帳を示したものです。貯金残高はいくらですか。

参拾七円五拾銭	百八拾円	六拾五円	式百拾五円	参拾五円	五拾壹円	七拾円	百円参拾銭	式拾八円	四拾五円	受入高
	参拾円	八拾円	百式拾円		六拾円					払出高

(5) 貯金通帳について、つぎの の中に、あてはまることばを入れなさい。

㉑ のところには、預け入れた金高を記入してあります。

㉒ のところには、貯金をひき出した金高を記入してあります。



これまでのれんしゅう



〔I〕

(1) つぎの計算をなさい。

$$4\frac{1}{3} + 3\frac{1}{6} \quad 2\frac{3}{8} + 5\frac{7}{8} \quad 3\frac{3}{4} + 5\frac{1}{12} \quad 4\frac{5}{6} + 2\frac{2}{9}$$

$$3\frac{5}{7} - 1\frac{7}{21} \quad 6\frac{4}{5} - 2\frac{5}{7} \quad 4\frac{1}{4} - 2\frac{5}{6} \quad 3\frac{5}{12} - 1\frac{11}{15}$$

$$1\frac{3}{4} + 2\frac{5}{12} + \frac{3}{8} \quad \frac{2}{3} - \left(\frac{1}{5} + \frac{1}{15}\right)$$

(2) つぎの計算をなさい。

$$\frac{3}{8} \times 2 \quad \frac{8}{9} \times 15 \quad \frac{6}{12} \times 8 \quad \frac{13}{16} \times 12$$

$$1\frac{3}{4} \times 2 \quad 3\frac{7}{10} \times 5 \quad 2\frac{5}{9} \times 6 \quad 6\frac{3}{8} \times 5$$

$$\frac{2}{5} \div 4 \quad \frac{3}{7} \div 9 \quad \frac{5}{12} \div 20 \quad \frac{9}{10} \div 3$$

$$2\frac{2}{3} \times 6 \quad 1\frac{2}{5} \div 3 \quad 6\frac{1}{4} \div 15 \quad 3\frac{3}{7} \div 12$$

$$\frac{7}{10} \times 3 \div 14 \quad \frac{12}{25} \div 2 \div 3$$

$$\left(\frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \frac{1}{4}\right) \times 3 \quad \left(1\frac{1}{8} - \frac{2}{3}\right) \div 11$$

(3) つぎの の中に、適当に書き入れなさい。

㉑ 受入高 - = 貯金残高

㉒ 貯金預入申込書は、 貯金するときに使います。

㉓ この算数教科書の大きさは、 判 です。

(4) たけし君は、「子供銀行」の成績について、学年

学年	人数	貯金高のわりあい
1	102	$\frac{1}{24}$
2	108	$\frac{1}{12}$
3	97	$\frac{1}{8}$
4	105	$\frac{1}{6}$
5	98	$\frac{1}{4}$
6	95	$\frac{1}{3}$
本 月 の 貯金高合計		32400円

別に調べ、左のような表を作りました。この表をもとにして、つぎのことを調べなさい。

㉔ 貯金高のわりあいは、どの学年がいちばん多いでしょう。また、どの学年がいちばん少ないでしょう。

㉕ 一年生の貯金高は、いくらでしょう。二、三、四、

五、六年生の貯金高は、それぞれいくらでしょう。

㉖ 各学年の貯金高のわりあいを、円グラフに表わしましょう。

㉗ 各学年の1人の平均貯金高は、いくらでしょう。

(II)

しゅ算の練習(三)

137 ページの表は、しゅ算で速算の練習をするのに使います。これは、1 から100 まで、じゅんに加えていったり、また、100 以下の数を、大きい方からじゅんにひいていったりするときに便利です。

使 い 方

(1) よせ算

1, 2, 3, 4, と加えていって、たとえば、36 まで加えたとします。そのときには、上の「三十」のらんと、左横の「6」のらんと交わったところの「666」が合計した答です。1 分間に 50 以上はできるようにしましょう。

(2) ひき算

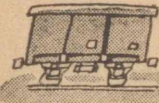
最初に、たとえば、210 とおいて、-1, -2, -3, -4, と 20 まで、ひき算すれば、答は 0 になります。最初にこの表の中のどの数をおいても、上のようになんぞひいていけば、最後には 0 になります。

さあ、練習しましょう。

速 算 練 習

	一	十	二十	三十	四十	五十	六十	七十	八十	九十
1	1	66	231	496	861	1326	1891	2556	3321	4186
2	3	78	253	528	903	1378	1953	2628	3403	4278
3	6	91	276	561	946	1431	2016	2701	3486	4371
4	10	105	300	595	990	1485	2080	2775	3570	4465
5	15	120	325	630	1035	1540	2145	2850	3655	4560
6	21	136	351	666	1081	1596	2211	2926	3741	4656
7	28	153	278	703	1128	1653	2278	3003	3838	4753
8	36	171	406	741	1176	1711	2346	3081	3916	4851
9	45	190	435	780	1225	1770	2415	3160	4005	4950
10	55	210	465	820	1275	1880	2485	3240	4095	5050

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	146	307	538	928	803	456	1275	439	8385	2419
	237	722	766	603	416	114	3087	8507	509	5273
	561	571	495	514	215	271	9434	903	2005	899
	708	315	503	132	829	905	2982	7952	672	328
	674	407	730	603	361	579	7308	610	5083	7543
5	479	993	841	435	723	1549	739	5786	914	616
	129	146	798	219	449	2836	406	641	3706	9906
	518	852	132	673	222	7095	582	1465	812	4358
	323	663	923	310	871	8687	327	212	6749	673
10	859	324	205	546	953	3068	951	9305	604	852
	316	732	477	839	407	249	7152	7152	383	8883
	174	275	638	707	393	713	2076	2076	3506	504
	617	571	559	693	154	421	4945	4945	407	3008
	539	385	604	146	865	805	8263	8263	8943	431
15	746	407	743	501	326	957	1709	1709	640	6075
	118	493	510	245	911	1834	927	927	6787	493
	295	792	987	671	222	5263	394	304	834	3508
	333	856	123	840	345	4095	169	169	1668	712
	437	626	392	273	781	6847	832	832	242	4955
20	829	362	605	452	937	3088	954	951	9106	106



しあげテスト (8)



(1) つぎの計算をなさい。

$$2\frac{1}{4} + 1\frac{3}{4} \quad 7\frac{7}{8} + 6\frac{7}{8} \quad 8\frac{3}{4} + 7\frac{3}{8} \quad 3\frac{1}{2} + 4\frac{3}{8}$$

$$7 - \frac{3}{8} \quad 1\frac{2}{5} - \frac{1}{6} \quad 3\frac{1}{3} - 1\frac{1}{4} \quad 2\frac{1}{6} - 1\frac{3}{4}$$

$$\frac{1}{2} + \frac{5}{6} - \frac{9}{4} \quad 2 - \left(\frac{7}{10} + \frac{1}{5}\right)$$

(2) つぎの計算をなさい。

$$\frac{2}{9} \times 3 \quad \frac{1}{12} \times 8 \quad \frac{2}{15} \times 6 \quad \frac{5}{12} \times 21$$

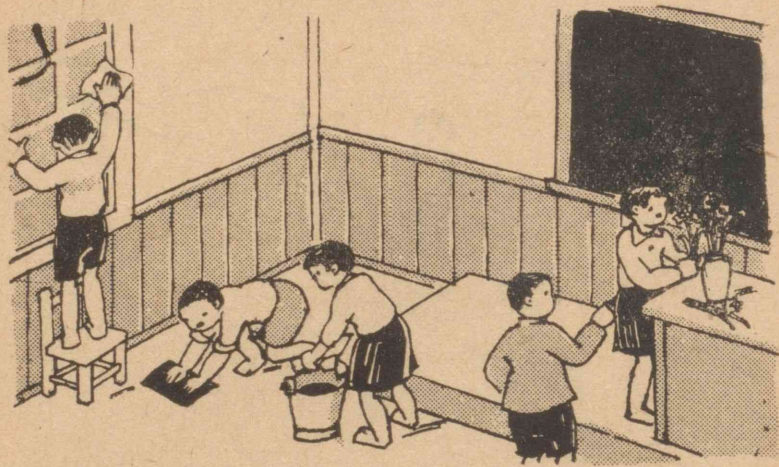
$$3\frac{1}{2} \times 5 \quad 6\frac{2}{9} \times 6 \quad 2\frac{7}{10} \times 8 \quad 1\frac{5}{18} \times 12$$

$$\frac{4}{7} \div 2 \quad \frac{3}{10} \div 9 \quad \frac{2}{3} \div 8 \quad \frac{8}{9} \div 12$$

$$10\frac{1}{2} \div 7 \quad 3\frac{3}{4} \div 9 \quad 5\frac{1}{3} \div 12 \quad 2\frac{2}{7} \div 4$$

$$\frac{1}{6} \times 4 \div 2 \quad \frac{5}{12} \times 3 \div 10$$

$$\left(\frac{5}{8} - \frac{1}{6}\right) \times 4 \quad \left(3 - 1\frac{2}{5}\right) \div 6$$



卒業を前にして

正 男 「ろうかが、ずいぶん光ったね。」

かず子 「そうね、もっとみがきましょう。」

進君は、すいせんの花を教室にかざっています。やがてかねが鳴って「話し合い」が始まりました。

広 「卒業を前にして、いろいろ考えていることを発表してください。」

かず子 「教室や校庭を、もっときれいにしたいと思います。」

正 男 「私たちが自治会できめたことを、しっかり守って下級生には、いっそう親切にしてあげたいと思

います。」

進 「6年間の学習の整理をして、中学にはいったときに、力を十分表わしたいと思います。」

ここで先生は、

「どれも、よい考えですね。こうして、小学校6年間のまとめをすることはたいせつなことです。」

といわれました。すると、ふみ子さんが、

「6年間は何日になるでしょう。」

といました。

私たちも、調べてみましょう。

6年間の日数

広君たちは、6年前の4月1日に一年に入学してから、ことしの3月31日の卒業の日までは、何日間あるかを計算することにしました。

かず子 「ことしは昭和27年で、2月は29日ありますね。」

正 男 「そう。うるう年だね。」

広 「平年は365日だが、うるう年は366日だね。」

ふみ子 「私たちの一年生のときから六年生のときまで

の間に、ほかに、うるう年がなかったかしら。」

ここで先生が、

「うるう年は、4年間に1回まわってきます。それは、西暦年数が4でわりきれぬ年です。」

と教えてくださいました。

広君たちは、つぎのようにして、調べました。

一年入学	—	昭和21年	—	西暦1646年
二年に進級	—	22	—	1947
三年に進級	—	23	—	1948
四年に進級	—	24	—	1949
五年に進級	—	25	—	1950
六年に進級	—	26	—	1951
六年卒業	—	27	—	1952

うるう年は、この6年間に2回あることがわかったので、つぎのように計算しました。

$$\text{かず子} \quad (365 \text{日} \times 4) + (366 \text{日} \times 2) = 2192 \text{日}$$

$$\text{正男} \quad (365 \text{日} \times 6) + 2 \text{日} = 2192 \text{日}$$

小学校6年間の日数を、つぎの卒業生について調べ

なさい。

昭和23年3月の卒業生 昭和29年3月の卒業生
昭和30年3月の卒業生 昭和32年3月の卒業生

広君たちのわけかた

広君たちは、六年生のはじめに、算数について、数、量形の三つに分けて整理したことを思いだして、つぎのように分けてみました。

1. 数
2. 数の計算
3. 図形
4. 量
5. グラフ
6. しゆ算

数

(1) 数といっても、二つの使い方があります。

① 正男君の席は、前から番目にあるというように、ものの順序を表わすときの使い方

② 正男君の班は、6人であるというように、ものの集まりの大きさを表わすときの使い方

(2) 数の種類

① 整数 — 0, 1, 2, 3, ……のような数。

② 小数 — .3, 6.5 のような数。

③ 分数 — $\frac{1}{3}$, $3\frac{5}{15}$ のような数。

数の計算

(1) 四つの計算法

㊦ よせ算 ㊧ ひき算 ㊨ かけ算

㊩ わり算

(2) 比, 連比

図形

(1) 方向 (2) 位置 (3) 形

量

(1) 長さ (2) 面積 (3) 体積, 容積

(4) 重さ (5) 角度 (6) 時間

(7) 温度 (8) 金高

グラフ

(1) 絵グラフ (2) 棒グラフ (3) 折れ線グラフ

(4) 帯グラフ (5) 円グラフ (6) 正方形グラフ

しゆ算

(1) よせ算 (2) ひき算

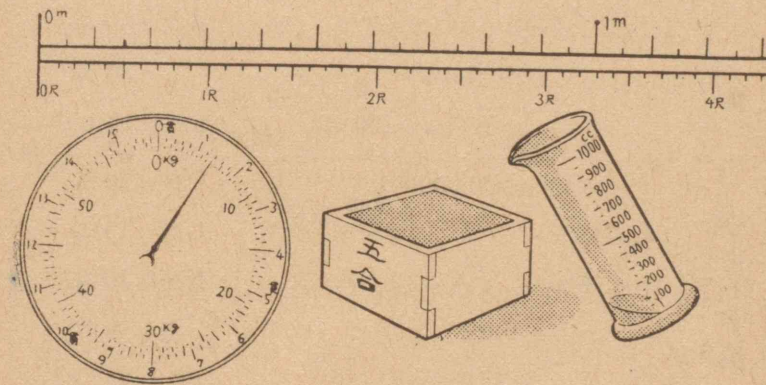
量の単位

先生は, 上のような分け方を, ほめてくださいました,

そして,

「量のかん算表を作ってください。」
といわれました。そこで広君たちは, みんなで調べて,
150 ページのように整理しました。

私たちも, このように整理しましょう。



図形のまとめ

つぎに, 図形について, まとめてみました。

(1) 方向と位置

㊦ 方位や角度を使って, 方向を表わすことができます。

㊧ 方位や角度と きよりで, 位置を表わすことが

か ん 算 表

長	$1 km = 1000 m$	1 間 = 6 尺
さ	$1 m = 100 cm$	1 尺 = 約 0.3 m
面	$1 m^2 = 1,0000 cm^2$	1 町 = 10 段
積	$1 km^2 = 100,0000 m^2$ $= 100 ha$	1 段 = 10 畝
	$1 ha = 100 a$	1 畝 = 30 步 = 30 坪
	$1 a = 100 m^2$	1 畝 = 約 1 a
体積・容積	$1 m^3 = 100,0000 cm^3$	1 石 = 10 斗
	$1 kl = 1 m^3$ $= 1000 l$	1 斗 = 10 升
	$1 l = 10 dl$ $= 1,0000 cm^3$	1 升 = 10 合
		1 合 = 10 勺
		1 升 = 約 1.8 l
重さ	$1 t = 1000 kg$	1 貫 = 1000 匁
	$1 kg = 1000 g$	4 貫 = 15 kg
角	1 直角 = 90 度	
度	1 回転の角度 = 360 度	
時間	1 日 = 24 時間	1 時間 = 60 分
		1 分 = 60 秒
金高	1 円 = 100 銭	

できます。

㉓ 鉛直線は、水平面に対して垂直です。

㉔ まっすぐな鉄道レールのように、きちんとならんでいる二つの直線は、平行です。

(2) 形

㉕ 形の種類

イ。円、三角形、正方形、長方形

ロ。立方体、直方体

㉖ しゆく図、相似形

表に書くこと

広君たちは、上のようにまとめることができました。

かず子さんが、

「これを紙に書いて、教室にはっておきましょう。」

というと、先生は、

「たいへんいいことですね。」

とほめてくださいました。そこでみんなは、さっそく班ごとに手分けして、仕事をはじめました。

私たちも、広君たちのように表にまとめて、教室にはりましょう。

単元のまとめをたしかめること

広君たちは、教室の表を見ながら、それぞれのこと
がらについて、整理しています。

正 男 「グラフの種類を知っていますか。」

かず子 「絵グラフ、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラ
フ、正方形グラフ、帯グラフの六つです。」

正 男 「では、各グラフの^{とくちょう}特徴をいえますか。」

かず子さんが、すぐにいえないでこまっていると、
これを聞いておられた先生は、

「よくやっていますね。だいじなことが思いだせない
時には、教科書の『単元のまとめ』のところを開いて
見れば、すぐわかりますね。」

といわれました。

私たちも、かず子さんたちのように復習しましょう。
そして、わからないところは、「単元のまとめ」を見て
調べましょう。

テスト問題のたしかめ

広君たちは熱心に勉強をして、ひととおり整理がで
きました。そこで、今度は、ほんとうに力がついたか

どうかをたしかめるために、今までのテストの問題を
くりかえしてやってみることにしました。

私たちもやってみましょう。

そして、わからないところには、しるしをつけて、
本を見なおしたり、先生に聞いたりして、できるよう
にしておきましょう。

ま と め

この単元では、つぎのような整理をして今まで
に学習いただいたことがらについて、たしかめ
ました。

(1) つぎの六つのそれぞれについてまとめる。

- ㉑ 数 ㉒ 数の計算 ㉓ 図形
㉔ 量 ㉕ グラフ ㉖ しゆ算

(2) 量の単位を明きらかにし、単位の間に関係
をまとめる。

(3) 各単元の「まとめ」と、今までの「テストの
問題」についてくりかえしたしかめる。

練習 (一)

(1) つぎの計算をなさい。

$$\frac{5}{6} + 1\frac{1}{8} \quad 2\frac{1}{2} + 4\frac{3}{5} \quad 1\frac{1}{8} - \frac{2}{3} \quad 4\frac{1}{4} - 2\frac{9}{14}$$

$$\frac{7}{12} \times 3 \quad 1\frac{5}{8} \times 5 \quad 4\frac{2}{9} \times 12 \quad 6\frac{7}{17} \times 3$$

$$\frac{10}{11} \div 6 \quad 1\frac{5}{7} \div 8 \quad 9\frac{1}{6} \div 11 \quad 2\frac{13}{16} \div 10$$

(2) つぎの□の中に、あてはまる数を入れなさい。

$$\begin{array}{r} \square\square 9 5 4 \\ + 6 7 \square \square 5 \\ \hline 1 4 0 8 2 9 \end{array} \quad \begin{array}{r} 6 \square 4 5 \\ + \square 7 6 \square \\ \hline 1 2 5 0 8 \end{array} \quad \begin{array}{r} 3 \square 7 2 \\ - 1 8 8 \square \\ \hline 1 5 \square 7 \end{array} \quad \begin{array}{r} \square 8 4 3 \\ - 3 \square 1 \square \\ \hline 1 9 2 9 \end{array}$$

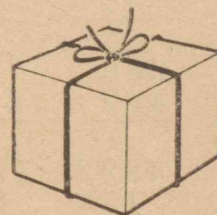
$$\begin{array}{r} \square 3 \square 8 \\ \times \quad \square 3 \\ \hline \square 9 \square 4 \\ \square 8 \square 8 \\ \hline 8 2 4 0 \square \end{array} \quad \begin{array}{r} 3 \square \square 5 \\ \times \quad 2 \square \\ \hline \square 7 \square 2 \square \\ 6 \square 5 0 \\ \hline 8 5 6 \square 5 \end{array} \quad \begin{array}{r} \square \square \square \\ 3 \square \overline{) 4 \square 2 7} \\ \underline{3 7} \\ 9 2 \\ \underline{7 } \\ 1 \square 7 \\ \underline{1 8 \square} \\ 2 \end{array}$$

(3) つぎの計算をなさい。

- ㉑ 21565 - 3286 - 4730 - 5948 - 1756
 ㉒ 30000 - 1385 - 4690 - 1570 - 10237

(3) 正男君のおとうさんが旅行をしました。汽車賃に費用全体の $\frac{1}{4}$ を使い、宿賃に全体の $\frac{4}{9}$ を使いました。正男君のおとうさんは、汽車賃と宿賃で全体の何分のいくつ使われたでしょう。また、残りは、全体の何分のいくつにあたるでしょう。

(4) 1 りょう 12 cm の立方体の箱を、図のようにゆわえるには、ひもの長さは、どれくらいあればよいでしょう。



(5) 上下 2 さつの本 5 部の代が 875 円で、上は下よりも 25 円安いそうです。上下各 1 さつの代はいくらですか。

(6) ある駐車場の電車の始発は 4 時 30 分で、それから 12 分ごとに出ます。その電車の停車場に 6 時 7 分に着いた人は、電車に乗るまでに何分待たねばならないでしょう。

(7) まわりが 66 m で、たてが 21 m の長方形の地面があります。この地面と同じ広さで、奥行 18 m の地面の間口は、何 m あるでしょう。

練習 (二)

(1) つぎのかけ算をなさい。

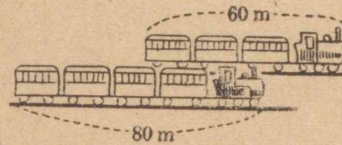
$\begin{array}{r} 54 \\ 14 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 43 \\ 76 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 24 \\ 27 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 1.5 \\ 38 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 7.4 \\ 94 \\ \hline \end{array}$
$\begin{array}{r} 276 \\ 34 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 640 \\ 20 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 405 \\ 76 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 62.8 \\ 54 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 1.86 \\ 19 \\ \hline \end{array}$
$\begin{array}{r} 286 \\ 462 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 790 \\ 250 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 678 \\ 899 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 2.74 \\ 127 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 3.62 \\ 523 \\ \hline \end{array}$
$\begin{array}{r} 3892 \\ 153 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 1987 \\ 652 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 6708 \\ 814 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 579.2 \\ 403 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 99.24 \\ 156 \\ \hline \end{array}$

(2) つぎのわり算をなさい。

$18\overline{)328}$	$20\overline{)327}$	$17\overline{)2.55}$	$83\overline{)99.6}$
$37\overline{)7918}$	$53\overline{)6978}$	$94\overline{)99.82}$	$59\overline{)84.37}$
$178\overline{)53400}$	$294\overline{)538.02}$	$788\overline{)464.98}$	
$256\overline{)3592876}$	$527\overline{)4365912}$		

(3) 道子さんの学校で、前年度に欠席した人のべ
人数を調べたら、6523 人でした。学校で勉強した日数
は 245 日でした。1 日平均して、何人欠席したこと
になるでしょう。

(4) 長さ 60 m, 速さ毎秒 8 m の A 列車に, 長さ
80 m, 速さ 10 m の B 列
車が追いつきました。何
秒で追いこすでしょう。



(5) ある水夫が, 静か
な水面ならば 1 時間 4.3 km の速さで舟をこぎます。
この水夫が, 1 時間 1 km の速さで流れている川を 3
時間こぎのぼったら, 何 km こぎのぼるでしょう。

(6) 安男君の家では, 農業で, つぎのようなわりあ
いの収入がありました。

米	麦	やさい	その他

- Ⓐ 上のようなグラフを, 何といいますか。
- Ⓑ 米は, 全体の何分のいくつですか。
- Ⓒ 麦は, 全体の何分のいくつですか。
- Ⓓ やさいは, 全体の何分のいくつですか。
- Ⓔ その他は, 全体の何分のいくつですか。
- Ⓕ 米, 麦, やさいの収入を, 連比で書きなさい。
- Ⓖ このグラフを, 円グラフに表わしなさい。

練習 (三)

(1) つぎを、それぞれ () の中の単位になおしなさい。

4日3時(時) 7日23時(時) 6時23分(分)
5時48分(分) 8分56秒(秒) 2時26分10秒(秒)

(2) つぎは、それぞれ何時何分ですか。

300分 152分 435分 210分 1000分

(3) つぎは、それぞれ何日何時ですか。

32時 55時 138時 293時 800時

(4) つぎは、それぞれ何秒ですか。

.1分 .2分 .5分 1.5分 2.8分

(5) つぎは、それぞれ何分何秒ですか。

85秒 200秒 380秒 630秒 750秒

(6) つぎの計算をなさい。

3時52分+10時4分 12時31分+17時48分
2日16時+3日19時 5日12時+4日17時
12時23分-9時48分 24時-16時15分
8日5時-4日11時 12日7時-5日16時
2日15分35秒+6時45分50秒-3時54分57秒

(7) つぎを、時・分・秒で答えなさい。

27分×15 36秒×48 32分×19
89秒×73 14分×51 75秒×64

(8) 1500 m の世界記録は、陸上競技では3分43秒
水上競技では、18分19秒です。それぞれ 100 m をい
くのに、平均何秒かかったでしょう。

(9) 正男君が、3月1日、3月15日、4月1日の日
の出、日の入りを、こよみで調べて、下の表を作りま
した。

	3月1日	3月15日	4月1日
日の出	6時12分	5時53分	5時29分
日の入り	5時35分	5時48分	6時2分

- ㉑ 3月1日の昼の長さを計算なさい。
㉒ 3月15日の昼の長さを計算なさい。
㉓ 4月1日の昼の長さを計算なさい。
㉔ 3月1日から15日までに、昼の長さは、どれだ
け長くなりました。
㉕ 3月15日から4月1日までに、昼の長さは、ど
れだけ長くなりましたか。

練習 (四)

(1) つぎの長さを、() の中の単位になおしなさい。

4 m 20 cm (m) 30 m 29 cm (m) 45.86 km (m)

9 mm (cm) 18 cm 5 mm (cm) .72 m (cm)

1260 m (km) 40 m (km) 8080 m (km)

(2) つぎの単位を、() の中の単位になおしなさい。

6 m (尺・寸) 1.5 尺 (cm) 12.5 尺 (m)

4.4 間 (尺) 27 尺 (間) 13.2 間 (m)

270 m² (a) 1500 m² (a) 10000 m² (ha)

5 a (m²) 1.08 ha (m²) 90 a (ha)

12 段 (町) 63 畝 (段) 240 坪 (畝)

90 歩 (畝) 210 坪 (畝) 50.6 段 (畝)

(3) 六じょうのへやは、たて1間半、横2間の長方形です。この面積は何坪ですか。

(4) 3畝6歩の長方形の宅地があって、横は12間です。たては何間でしょう。

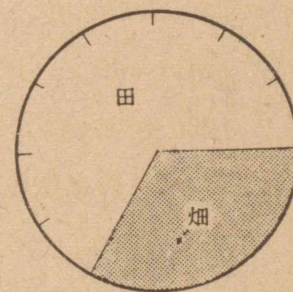
(5) ある工場に、工員が作っている畑が二か所にあります。たて46m、横48mの長方形の畑と、たて36.5m、横72mの長方形の畑です。たがやしてい

る工員は25人です。

① 畑全体の広さは、何 a ですか。

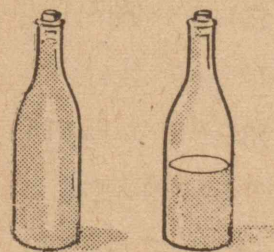
② 工員1人あたり、約何 a ですか。

(6) 右の図は、よしお君の村の田と畑の割り合いを示したのです。田は全体のどれだけにあたりますか。畑は全体のどれだけにあたりますか。分数・小数・比で表わしてごらんください。

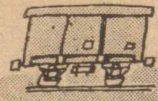


(7) 秋子さんの村の三つの部落の畑の広さの割り合いは、9:15:12になっています。これを円グラフで表わしましょう。

(8) 進君の家の時計は、6日間に $\frac{3}{10}$ 時間進みました。1日に何時間ずつ進んだのでしょうか。それは何分ですか。



(9) しょう油の入っているびんが2本あります。一方には2l、もう一方には12dl入っています。両方を同じにするには、どうすればよいでしょう。



しあげテスト (9)



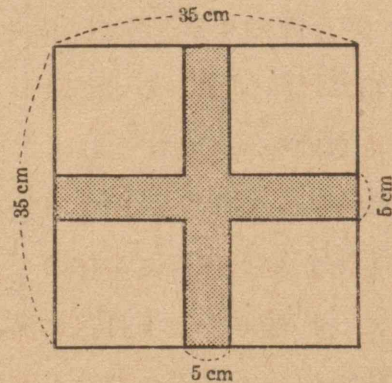
(1) つぎの式を計算なさい。

$$\begin{array}{r}
 6853 + 927 + 4013 \\
 \text{kl} \quad \text{l} \quad \text{dl} \\
 3.176 + 4.32 + 1.6 \\
 \text{km} \quad \text{cm} \quad \text{m} \quad \text{cm} \\
 0.25 + 325 + 18 + 72 + 26.05
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{r}
 325 + 9481 + 79 + 8 \\
 \text{円} \quad \text{円} \quad \text{銭} \\
 18.25 + 9.73 + 85 \\
 \text{m}
 \end{array}$$

(2) 多くの人たちがバスを待っています。やがて、バスが2台つづいてきました。待っていた人の $\frac{1}{5}$ が最初のバスに乗りました。その3倍の人がつぎのバスに乗りました。残った人は、全体の何分のいくつでしょう。

(3) 長さ 11 m の反物で兄弟の着物を仕立てました。兄の分は弟の分よりも 160 cm 多くいりました。それぞれ、どれだけいりましたか。

(4) 右の図のように、正方形の板に色で幅 5 cm の十文字を書きました。色をぬった所の面積は、何ほどですか。残りは何ほどですか。



(5) 成績調べが3度ありました。その成績表は、つ

回数	一	二	三	平均
せいせき点	8.5		7.2	8.3

ぎのように、その一部が破れています。

第2回目の成績は、何点でしたか。

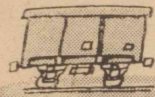
(6) 麦を作ろうと思って、きょ年 $2a$ の土地を、かいこんしました。ことし、そこを2倍にひろげて正方形にしました。一辺の長さは、何 m あるでしょう。

(7) 240 m はなれて、2本の電柱があります。この電柱の間に、 10 m おきに桜を植えました。桜を何本植えたでしょう。

(8) 2月5日に生まれた子供の100日目は、何月何日にあたるでしょう。

(9) 内のりが、たて、横それぞれ 1 m 、深さ 1.2 m の箱には、何 kl の水がはいりますか。また、その水の重さはどれだけでしょう。

(10) ふみ子さんは、4日かかって1さつの本を読みました。第1日目に全体の $\frac{1}{8}$ 、第2日目に $\frac{1}{4}$ 、第3日目に $\frac{1}{3}$ 、残りを第4日目に読みました。第4日目には、全体の何分のいくつ読んだでしょう。



しあげテスト (10)



(1) つぎの計算をなさい。

$$\frac{5}{6} \times 4 \quad \frac{13}{18} \times 15 \quad \frac{19}{21} \times 3 \quad 2\frac{5}{9} \times 6 \quad 1\frac{10}{21} \times 18$$

$$\frac{8}{9} \div 4 \quad \frac{3}{8} \div 12 \quad \frac{15}{23} \div 5 \quad 1\frac{5}{7} \div 16 \quad 2\frac{13}{16} \div 9$$

(2) 右の表のあいたところに
適当な数を入れ、たてによせても、
横によせても、答が同じになるよ
うになさい。

	25		2
	3	5	9
8	1		7
6	8	4	

(3) 1lのますを作ろうと思っ
て箱をさがしますと、内のりのたて 5 cm, 横 8 cm,
深さ 30 cm の直方体の箱が見つかりました。深さをど
れだけにすればよいでしょう。

(4) つぎの の中に、あてはまる数を入れな
さい。

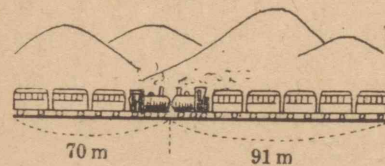
Ⓐ 1 t = kg Ⓑ 4 貫 = kg

Ⓒ 1 間 = 尺 Ⓓ 1 ha = a

Ⓔ 1 回転の角度 = 度

(5) てるお君は、五万分の一の地図で、自分の家か
らおばさんの家までの道のりを、地図の上ではかった
ら、12 cm ありました。実際の道のりは、どれだけで
しょう。

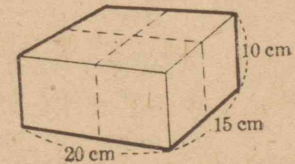
(6) 長さ 91 m の上り列車と、長さ 70 m の下り



列車とは、出合ってから、何秒間ではなれる
でしょう。上り列車の
速さは毎秒 14 m, 下り

列車は毎秒 9 m の速さです。

(7) ふみ子さんが、ねえ
さんに、右の図のような直方
体の箱にみかんを入れて送り
たいと思います。この箱を、



ひもで十文字にゆわえるには、ひもが何 m いるでし
ょう。(むすび目は計算に入れません。)

(8) てんびんで 1 g 1 個, 2 g 2 個, 5 g 1 個の 4
個の分銅ぶんどうを使ってはかると、一回に何 g の重さのもの
がはかれるでしょう。全部書きなさい。

向上テストの答

P. 27 テスト (一)	1A	① 22093	③ 30723	
		③ 25966	④ 22519	
		⑤ 15263	⑥ 25607	
		⑦ 18317	⑧ 23250	
	1B	① 7297	② 6437	
		③ 6576	④ 6361	
		⑤ 6056		
	P. 55 テスト (二)	2A	① 5669	② 2196
			③ 3869	④ 4828
			④ 5855	⑥ 1474
		⑦ 7877	⑦ 2489	
		⑨ 4756	⑩ 1973	
2B		① 4338	② 18382	
		③ 13660	④ 17735	
		⑤ 15970	⑥ 57906	
		⑦ 53738	⑧ 9620	
		⑨ 6678	⑩ 35614	
	⑪ 8578	⑫ 2099		
	⑬ 19379	⑭ 57411		
⑮ 60360	⑯ 36449			
P. 37 テスト (三)	3A	① 21762	② 12629	
		③ 11153	④ 75763	
		⑤ 18044	⑥ 7248	
		⑦ 19234	⑧ 6574	
		⑨ 75990		
	3B	① 194557	② 802109	
		③ 433329	④ 884952	

P. 38 テスト (四)	3C (7-4は「7余り4」とする。)	⑤ 369234	⑥ 441275
		① 317-10	② 457-15
		③ 709	④ 219
		⑤ 834-27	⑥ 358-5
	3D	① 647-32	② 903-11
		③ 523	④ 1110-25
		⑤ 748	⑥ 573-29
	4A	① $5\frac{1}{4}$	② $10\frac{3}{8}$
		③ $8\frac{9}{10}$	④ $7\frac{4}{15}$
		⑤ $13\frac{1}{8}$	⑥ $3\frac{3}{4}$
⑦ $8\frac{5}{6}$		⑧ $10\frac{1}{12}$	
4B		① $3\frac{1}{8}$	② $\frac{1}{8}$
		③ $2\frac{1}{6}$	④ $\frac{3}{5}$
		⑤ $1\frac{3}{8}$	⑥ $4\frac{7}{12}$
	⑦ $1\frac{1}{2}$	⑧ $2\frac{5}{12}$	
	⑨ $1\frac{9}{10}$		
4C	① 26	② $5\frac{1}{4}$	
	③ $67\frac{1}{2}$	④ $4\frac{3}{4}$	
	⑤ $1\frac{1}{2}$	⑥ 413	
4D	① $\frac{2}{5}$	② $\frac{3}{10}$	
	③ $\frac{4}{3}$	④ $\frac{7}{27}$	
	⑤ $\frac{3}{4}$	⑥ $\frac{2}{7}$	

P. 98 計算の練習 (一) の答

第1 だん	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	282	247	184	375	311	338	356	338	298	265
第2 だん	316	267	277	275	276	260	299	209	261	300
第3 だん	323	198	211	298	345	219	290	174	241	305
第4 だん	357	243	349	319	267	228	252	315	290	353

P. 100 計算の練習 (二) の答

上 だん	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	524	616	628	602	623	415	663	620	528	570
中 だん	544	558	561	480	495	479	606	582	535	496
下 だん	504	574	619	584	542	470	596	537	535	483

P. 139 計算の練習 (四) A の答

上 だん	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	4158	3722	4044	4057	4719	109.65	209.84	229.14	25.394	224.86
中 だん	3141	4204	3517	3820	4501	115.76	270.11	234.16	240.41	132.71
下 だん	4781	4739	3784	4295	4467	210.26	272.04	279.82	248.53	143.66

P. 140 計算の練習 (四) B の答

上 だん	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	3598	3596	3329	3935	3936	70.28	199.63	186.34	176.49	223.53
中 だん	2172	3644	4324	3683	3457	70.92	94.60	94.60	237.60	205.74
下 だん	2912	3788	4854	3932	3467	86.68	92.31	91.38	279.00	212.35

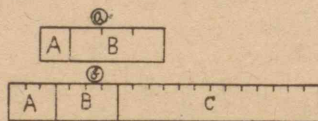
テストの答

P. 22
テスト
(11)

- (1) ㉑ 10 m ㉒ 500 m
㉓ 60 km ㉔ 200 km
(2) ㉑ 相似形 ㉒ 4倍
(3) 名古屋 約 270 km
大阪 約 390 km
仙台 約 300 km
松山 約 660 km
熊本 約 870 km
札幌 約 720 km
(4) 9:25

P. 57
テスト
(12)

- (1) 48° 65° 130° 100° 250°
(2) 先生に見ていただきなさい。
(3) ㉑ 5時20分 ㉒ 8時10分
㉓ 5時40分 ㉔ 15時50分
㉕ 5時35分
(4) 10時間10分
(5) ㉑ ① 自動車 ② 電車
③ 汽車, 自転車
㉒ ① 自動車 59 電車 18
汽車, 自転車 5 その他 13
(6)



P. 61
しあげ
(6)

- (7) 帯グラフ 全体 部分
面積 面積グラフ
(1) 207 7.1 33.03 122.76 53.2
(2) 8時42分 5時17分
10時2分 6時27分
4日1時59分
(3) ㉑ 76 m ㉒ 80 cm
(4) 0.25 km² 18 km²
(5) 田 480 ha 畑 300 ha
森林 180 ha その他 240 ha
(6) ㉑ 香川 $\frac{29}{100}$ 兵庫 $\frac{16}{100}$
山口 $\frac{11}{100}$ 岡山 $\frac{9}{100}$
その他 $\frac{35}{100}$
㉒ 香川 約 14.5万 kg
兵庫 約 8万 kg
山口 約 5.5万 kg
岡山 約 4.5万 kg

P. 78
テスト
(12)

- その他 約 17.5万 kg
(1) $33\frac{3}{4}g$ 60 g 375 g
 $1687\frac{1}{2}g$ 2625 g $26\frac{1}{4}kg$
90 kg $318\frac{3}{4}kg$ 450 kg
 $562\frac{1}{2}kg$
(2) $2\frac{2}{15}$ 匁 8匁 20匁 72匁
240匁 $\frac{4}{5}$ 貫 $2\frac{2}{3}$ 貫
12貫 16貫 40貫
(3) 20 g 30匁 800 g 3貫
60 kg 120貫 同じ 4t.
5000貫
(4) 6貫 3貫300匁
7貫500匁 7貫8000匁
9貫530匁 60貫930匁
5貫200匁 240匁
42貫500匁 1貫800匁
(5) 1畝について約 36貫
1aについて約 135 kg
(6) (2+8)×7+2=35(俵)
(7) 18台
(8) ㉑ 6貫600匁 ㉒ 1貫800匁
(1) 12合 38升 20.5升 4.3石
6斗 3石5斗5合 104斗
40升 29斗 24.8升
(2) 約 3.6 l 約 15.2 l
約 113.4 l 約 9.9 l
約 1260 l 約 58.5 l
約 910.8 l 約 4.5 kl
約 21.6 kl 約 180 kl
(3) 5斗7升 1斗5升2合
7斗4升 6石6斗3升
9升8合 1升7合
4斗8升5合 1石6斗7升
1石4斗4升 3石1斗1升5合
14石5斗2升 41石4斗9升6合
9升 1斗6升1合
4斗6升 3斗8升
(4) 約 1石5斗2升
(5) 約 3斗2升2合 約 8俵
(6) ㉑ 144俵 ㉒ 57石6斗

P. 93
テスト
(14)

- (1) $(22+4+9)-(8+5+6)$
 $=35-19=16$
 $(35+4+12)-(16+8)$
 $=41-24=17$
 $(43+61+24+37)-(18+57)$
 $+9=165-84=81$
 $(250+620+310)-(280$
 $+170+560)=1180-1010$
 $=170$
 $(1000円+1500円+800円)$
 $-(200円+1200円$
 $+400円)=3300円$
 $-1800円=1500円$
(2) 3 25 32 102 496円
(3) 26円95銭
(4) 536円80銭
(5) ㉑ 受入高 ㉒ 払出高
(1) $4\frac{3}{4}$ $16\frac{1}{8}$ $6\frac{5}{8}$ $1\frac{7}{30}$
 $2\frac{1}{12}$ $\frac{5}{12}$ $\frac{8}{9}$ $1\frac{1}{10}$

P. 101
しあげ
(7)

- (7) 3960円
(8) 約 7斗5合
(1) 1736 1551 176.8 134.22
216.29 548 266 5.6
34.83 31.19 55198 97818
20325 25904.88 81169.98
39.289 余り 76 .55
(2) 1町3段3畝18歩
1町5段4畝8歩 1石2斗
4斗5升5合 6貫500匁
3貫500匁 3.4 kl 1.1 t
6石2斗1合 11貫500匁
50貫400匁 5斗4升5合
(3) ㉑ 2:3 ㉒ 4:5 ㉓ 3:5
㉔ 16:9 ㉕ 6:5
(4) 14俵
(5) $\frac{7}{30}$
(6) 52石8斗
(7) 3.6 l 14.4 l 0.54 l 72 l
0.9 l 216 l

P. 117
テスト
(15)

- (1) 1498 701 2465 1213
15.25 2009 m 1493 g
2357 l 3246 銭 1627 円
(2) 1305 1363 6489 61.52
62.52 2796 ha 1851 kg
5485 m 1384 円 8 円 89 銭
(3) 2013 円 30 銭
(4) 2150 円

P. 132
テスト
(16)

- (1) $(22+4+9)-(8+5+6)$
 $=35-19=16$
 $(35+4+12)-(16+8)$
 $=41-24=17$
 $(43+61+24+37)-(18+57)$
 $+9=165-84=81$
 $(250+620+310)-(280$
 $+170+560)=1180-1010$
 $=170$
 $(1000円+1500円+800円)$
 $-(200円+1200円$
 $+400円)=3300円$
 $-1800円=1500円$
(2) 3 25 32 102 496円
(3) 26円95銭
(4) 536円80銭
(5) ㉑ 受入高 ㉒ 払出高

P. 141
しあげ
(8)

- (1) $4\frac{3}{4}$ $16\frac{1}{8}$ $6\frac{5}{8}$ $1\frac{7}{30}$
 $2\frac{1}{12}$ $\frac{5}{12}$ $\frac{8}{9}$ $1\frac{1}{10}$

P. 165
しあげ
(9)

- (2) $\frac{2}{3}$ $\frac{2}{3}$ $\frac{4}{5}$ $8\frac{3}{4}$ $17\frac{1}{2}$
 $37\frac{1}{3}$ $21\frac{3}{5}$ $15\frac{1}{3}$ $\frac{2}{7}$ $\frac{1}{20}$
 $\frac{1}{12}$ $\frac{2}{27}$ $\frac{1}{2}$ $\frac{5}{12}$ $\frac{4}{9}$
 $\frac{4}{7}$ $\frac{1}{3}$ $\frac{1}{8}$ $\frac{5}{6}$ $\frac{4}{15}$
(3) ㉑ 7402 ㉒ 2047
(4) ㉑ 870 円 ㉒ 385 円
㉓ 485 円
(1) 11793 9898 3180.48 l
28 円 83 銭 289.02 m
(2) $\frac{1}{5}$
(3) 兄 630 cm 弟 470 cm
(4) 正方形 900 cm²
十文字 325 cm²
(5) 9.2
(6) 20 m
(7) 23本
(8) 平年では—5月15日
うるう年では—5月16日
(9) 1.2 kl 1.2 t
(10) $\frac{7}{24}$

P. 167
しあげ
(10)

- (1) $3\frac{1}{3}$ $10\frac{5}{6}$ $2\frac{5}{7}$ $15\frac{1}{3}$
 $26\frac{4}{7}$ $\frac{2}{9}$ $\frac{1}{32}$ $\frac{3}{23}$ $\frac{3}{28}$
 $\frac{5}{16}$
(2)

3	7	
20		
	21	
		19

(3) 25 cm
(4) ㉑ 1 t = $\frac{1000}{15}$ kg
㉒ 4 貫 = $\frac{15}{6}$ 尺
㉓ 1 間 = $\frac{6}{100}$ a
㉔ 1 回転の角度 = $\frac{360}{1}$ 度
(5) 約 6 km
(6) 7 秒
(7) 1.1 m
(8) 1 g 2 g 3 g 4 g 5 g
6 g 7 g 8 g 9 g 10 g

さくいん

数	しゆ算136~138 見取算97 読上算99 山につんだ木炭の計算62, 69	よせ算, ひき算, かけ算, わり算148 比, 連比148
形	相似形1, 15 地図1, 2 箱根4, 5 日本地図(8), 北海道(9), 九州(10)15 方向, 位置, 形148	
量	相似形の面積の比20(22) 度1回転360°, 直角分度器54, 55 貫64~67 t71, 76 俵81 kl84, 90	縮尺20, 22 匁66, 75 石, 斗, 升, 合79, 90 ます82 量の長さ, 面積, 体積, 容積, 重さ, 角度, 時間, 温度, 金高
グラフ	テストのグラフ80, 81, 82 円形グラフ49, 50, 56, 58, 60, 148 正方形グラフ51, 52, 53, 56, 58, 62 面積グラフ53 折れ線グラフ148	帯グラフ41, 42, 43, 53, 62 絵グラフ148 棒グラフ148
実務	家計費39, 50 かんじょうがき111 受入高119, 121, 122 貯金高119, 122, 123 収支計算126 残高129	領収書130, 111, 112 ゆうびん貯金119 払出高119, 121, 122, 123 貯金預入申込書124, 125 利益126 子供銀行135
其他	向上テストの仕方25 十点満点になおす表, 点数早見表28, 29, 32~34 家計費51~53 貨車のしるし ワム, トム71, 72 測定4(まがった道)5, 7 方眼紙による面積の求め方(11), (12, 13) 角の測定55, 57, 59 作付面積85 段当り94 図書分類104 壱式参拾122 かんざん表49	向上テスト23~26 セム, セキ79 実取高85 十進分類法103, 105 本の大きさ107~109 うるう年146

小算613

六年生の算数 下		Approved by Ministry of Education (Date 1950)	
編者	東京都大田区雪ヶ谷町 清明学園初等学校内	財団法人	日本新教育研究会
		理事長	濱野重郎
		編集長	照井猪一郎
担当執筆者	成城学園教諭 堀川 掬 成蹊学園教諭 徳永 吉晴 慶應義塾教諭 林 佐一	成城学園教諭	原川 武雄
		学習院教諭	安田 良一
表紙とさしえ	大槻 定雄		木俣 武
昭和25年	月 日 印刷	¥	
昭和25年	月 日 発行		
著者	東京都大田区雪ヶ谷町 清明学園初等学校内		
	財団法人	日本新教育研究会	会長 高橋誠一郎
発行者	東京都港区芝三田豊岡町8番地		
	学校図書株式会社	代表者	川口芳太郎
印刷者	東京都港区芝三田豊岡町8番地		
	図書印刷株式会社	代表者	川口芳太郎
発行所	東京都港区芝三田豊岡町8番地		学校図書株式会社

本書の指導書・ワークブック・註釋書並びにこれに類する一切のものの無断發行を禁ずる。

広島大学図書

0130449826



教

34

013